

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



日本・マレーシア外交関係樹立 60 周年記念

マレーシア派遣日本武道代表団



日本・マレーシア外交関係樹立60周年記念

マレーシア派遣日本武道代表団

武道を通じて国際交流



日本・マレーシア外交関係樹立60周年記念マレーシア派遣日本武道代表団（主催：日本武道館、日本武道協議会）は、11月8日～15日の8日間、マレーシア・クアラルンプール市へ派遣された。本事業では、武道演武会を通して日本武道の真髄を披露するとともに、武道への理解と普及振興を図り、マレーシアとの国際友好親善に寄与することを目的として武道セミナー、武道体験会、交流稽古会等を実施した。本年度は日本人学校での武道必修化実現に向けた会談も行われた。

代表団は、高村正彦日本武道館会長以下、現代武道9種目（柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道）及び古武道3流派（柳生新陰流兵法剣術、沖繩剛柔流武術、水鷗流居合剣法併伝正木流鎖鎌術）の計12団体の代表者66名に、事務局スタッフを加えた計75名で編成された（団員名簿別掲）。

■結団式・壮行会、マレーシア到着
（11月8日）

午前11時より、日本武道館第二小



ワークショップ (11月12日)

道場において、平成29年度マレーシア派遣日本武道代表団の結団式・壮行会が行われた。結団後、白井日出男日本武道館・日本武道協議会理事長の壮行の言葉に続いて、全日本柔道連盟中里壮也専務理事の発声により本事業の成功を祈念して乾杯が行われた。次に、団長の高村正彦日本武道館・日本武道協議会会長が挨拶に立ち、「武道の真髄をマレーシアの方に披露し、さらなる友好関係を構築していきたい」と派遣団の決意を表明した。日本武道代表団は成田空港からマレーシア・クアラルンプール市へ向け日本を発ち、現地時間、午前0時半過ぎにクアラルンプール国際空港へ到着した。

■表敬訪問 (11月9日)

高村正彦団長は議会でザヒド副首相と会談を行った後、午後5時より、マレーシア青年・スポーツ省カイリー・ジャマルディン大臣を表敬訪問した。高村団長は、「日本では5年前から全国1万余校の中学校保健体育の授業で武道が必修化されています。クアラルンプール日本人学校においても世界初となる中学校武

■武道セミナー・武道演武会
(11月9日)



講演を行う柳生団員



道必修化を計画中です」と述べ、カ
イリー大臣からは「マレーシアは日
本から多くを学びたいと考えていま
す」と応じた。その後、団長から大
臣へ飾り兜が贈呈された。

■武道セミナー及び武道演武会・武
道体験会(11月9日)

この日は、マレーシア工科大学・
マレーシア日本国際工科院主催によ
る「Japan Days」と称するオーブン
キャンパスが行われており、開会式
で演武を披露する空手道・相撲の団
員のみ、午前8時にホテルを出発。
その他の団員は、武道セミナーに出
演するため、午前10時にホテルを出
発した。

開会式では、ダト・スリ・イドリ
ス・ジユソ高等教育大臣、在マレー
シア日本国大使館宮川眞喜雄特命全
権大使、マレーシア工科大学・マレ
ーシア日本国際工科院ルビヤ・ユー
ソフ院長などの多数の来賓の面前
で、空手道と相撲の演武を堂々と披
露した。

武道セミナーでは、柳生新陰流兵
法剣術代表の柳生耕一団員が「伝統
文化である武道を理解してもらうこ

とがさらなる友好関係を築くことに
繋がることを願っています」と派遣
団を代表して挨拶を行い、続いて牧
島亮男副院長が大学を代表して挨拶
した。セミナーでは過去最大規模と
なる計500名の現地大学生及び高校生
に向けて、柳生団員が「武道のここ
ろ」についての講演を行った。「身
体と心を通して稽古において鍛錬
し、人としての基盤を築く、眞実之
人」が人生の目標である」と述べ、
講演を締めくくった。

武道演武会では、すべての団体が
ステージ上で演武を披露し、武道体
験会では、現地学生は初めて見る武
具に触れ、演武者と写真撮影を行う
などお互いに交流を深めた。

最後にルビヤ・ユーソフ院長から
「全員が本日の演武を見るのを楽し
みにしていました。素晴らしい演武
をありがとうございました」と謝辞が
あり、ルビヤ院長から柳生団員へ記
念品が贈呈された。

■日本人学校武道演武会(11月10日)

午前8時にホテルを出発し、約1
時間ではマレーシア日本国大使館附
属クアランプール日本人会日本人

学校に到着。その後、午後1時から
の演武会にむけてリハーサルを入念
に行った。

演武会前には高村団長とクアラ
ンプール日本人学校宮谷眞一郎学校
長が、中学校武道必修化について会
談。宮谷校長は、「日本入学校では
以前、柔道を教えていたが、指導者
の確保ができず、長くは続かなか
つた。武道必修化を実現させるには安
定した指導者の確保が必須である」
と述べ、高村団長は「日本武道館か
ら、柔道の有段者で、元教育者であ
る外部指導者を推薦したので、中
学校武道必修化の授業内容としては日
本以上の基本に重点を置いた体制が
築けるのではないかと。全日本柔道連盟
とも協力し、貴校における武道の導
入と継続実施に向けて今後も支援し
ていく所存である」と応じた。その
後、高村団長から宮谷校長へ書籍の
目録と武者人形が贈呈された。

会場である日本人学校体育館には
幼稚部・小学部・中学部の在校生徒、
予想を大きく上回る申し込みのあつ
た保護者も加わり、過去最大規模と
なる約1000人が見守る中、弓道
から順に演武を披露した。演武会途

■ 日本人学校演武会（11月10日）



空手道体験



剣道体験



柔道体験



銃剣道



少林寺拳法



弓道



相撲



沖縄剛柔流武術

中で幼稚園児と小学校1年生はスクールバスで一足早く下校するため、柔道の演武終了後に柔道の体験を行い、休憩時間に退場した。その後も気合の入った演武が続き、空手道の演武をもって演武会が終了。演武会終了後、2回目のワークショップが始まると、武道体験を希望する生徒が殺到し、演武会場がすぐに埋まってしまっただけであった。興奮と熱気に包まれて武道体験会が終了すると、閉会式では、生徒を代表して中学部生徒会長の川崎堅太君から「迫力ある演武に魅了されました。このような貴重な体験をさせていただきました本当にありがとうございます」とお礼の言葉があり、高村団長と握手を交わした。最後に演武者と在校生徒で集合写真を撮影して、日本人学校での演武会のすべてが終了した。

■ 交流稽古会（11月11日）

この日は、なぎなた、相撲、沖縄剛柔流武術を除く9団体が現地武道連盟と交流稽古会を実施した。稽古後に現地連盟が団員との食事を準備するなど、国境を越えて同じ武道を修行する者同士で交流を深めた。

■ 武道演武会 (11月12日)



開会式



高村正彦
日本武道代表団団長



ダトゥ・ロクマン・ハキム・アリ
青年・スポーツ省次官



空手道



銃剣道



合気道

■ 武道演武会 (11月12日)

本事業の中心となる「日本・マレーシア外交関係樹立60周年記念日本武道演武大会」は、シャアラム市にある「コンプレックス・スカンネガラ・シャアラム(パナソニックスタジアム)」で行われた。

団員は、午前10時に会場に到着し、入念なりハーサルを行い、本番に備えた。午後1時の開場時には、入場を待ちわびる来場者で行列ができていた。午後2時、来賓が入場すると開会式が始まった。両国の国歌斉唱の後、高村団長が主催者挨拶を行った。

「今回演武を披露するメンバーは、いずれも日本を代表する一流の指導者や選手達です。現代武道9道と古武道3流派の磨きぬかれた代表的な演武をご披露いたします。ぜひ皆様にご披露の真髄を肌で感じとっていただきたいと思えます」

続いて、ダトゥ・ロクマン・ハキム・アリ青年・スポーツ省次官から歓迎の挨拶、最後に宮川大使が来賓祝辞を述べた。

演武は一種目8分の持ち時間で、最初に弓道の演武が行われた。静粛



柔道



沖縄剛柔流武術



剣道



なぎなた



水鷗流居合剣法併伝正木流鎖鎌術

の中、矢的に中ると、観客から大きな歓声と拍手が沸き起こった。その後も次々と気迫あふれる演武が展開され、演武のたびに会場は拍手に包まれた。柔道の演武後には柔道を修行している現地の子どもたちと演武者が交流稽古を行い、柔道の「柔よく剛を制す」を体現するように、小さな子どもが大きな演武者を投げると、会場からは歓声が上がリ、観客は笑顔で拍手を送った。

最後の演武種目である相撲の演武者が入場すると会場のボルテージは最高潮に達し、初めて見る生の相撲の演武を興味深そうに撮影する観客が多く見られた。

閉会式では高村団長が「真の国際交流とは、自国の文化を誇りとしながら他国の文化を認め、尊重し、敬意を払うことから始まる、と考えます。これからも武道を通じて、マレーシアと日本の友好親善がますます深まることを心から望むものであります」と挨拶。

続くワークショップでは、各種目で行列ができるほどの盛況ぶり、団員と来場者の笑顔が溢れる中、大成功の裡に終了した。



柳生新陰流兵法剣術



相撲



弓道



少林寺拳法



ワークショップ(11月12日)

■慰労会(11月12日)

演武会の後、宿泊ホテルにて本事業にご尽力いただいた青年・スポーツ省や日本国大使館、現地武道連盟などの関係者を招き、日本武道館主催の慰労会を開催した。高村団長、青年・スポーツ省アジアシン国際関係局長、宮川大使、クアラルンプール日本人会中山昌邦副会長の挨拶に続いて、マレーシア日本人商工会議所外処敏彦会頭の乾杯の発声で開宴し、演武会の成功の慶びを団員と現地協力団体出席者全員で分かち合い、所属団体の枠を越えて交流の輪が広がった。

途中、高村団長から柔道・剣道・空手道の現地連盟に対し、感謝の意を込め、道着と竹刀が各々贈呈された。最後は剣道団体責任者の澤部哲也団員の挨拶で会は終了した。

■市内視察(11月13日)

演武会の翌日、休息も兼ねてクアラルンプール市内を視察した。新王宮、国家記念碑、国立モスク、独立広場、バツ洞窟、ピユーター工場を訪れ、マレーシアの歴史や文化に触れる一日となった。

■解団式（11月13日）

市内視察後、市内のイタリアンレストランに移動して解団式が行われた。弓道の桑田秀子団員による乾杯の発声に始まり、各道代表者が本事業の所感を述べ、最後は空手道の秋山聡団員による挨拶で閉会した。

■オプショナルツアー（11月14日）

この日は、オプショナルツアーとなり、希望者のみ世界遺産である港湾都市・マラッカとゲンティン・ハ

イランドにの二手に分かれ、マレーシアの歴史と文化に触れ、異文化への理解を深めた。

■帰国（11月15日）

早朝ホテルを出発。クアラルンプール国際空港から出国し成田空港に到着。全団員が演武会の成功による達成感と安堵感を胸に帰国し、マレーシア派遣全行程を終えた。

（マレーシア派遣日本武道代表团・日本武道館プロジェクト事務局）



慰労会（11月12日）



クアラルンプール市内視察（11月13日）

◎派遣団員名簿 ※敬称略

◇団長

高村正彦（日本武道館会長）

◇団長秘書

高村治子

◇コーディネーター

谷田茂

◇外務省

石川義久、櫻井洋子

◇警視庁

西健太郎

◇日本武道館プロジェクト事務局

片岡正徳、長末論、増岡翔太

◇柔道

光本健次（七段）、濱名智男（七段）、青木伸司（六段）、石松和資（六段）、下山陽邦（五段）、栗野靖浩（参段）

◇剣道

澤部哲矢（教士八段）、西川讓（教士七段）、青木茂（教士八段）、佐藤哲通（教士七段）、菅幹博（教士七段）、高橋嶺（四段）

◇弓道

桑田秀子（教士八段）、田中恵美子（教士八段）、足利幸吉（教士七段）、磯部孝（教士七段）、大隅雅成（教士七段）、高水大輔（錬士五段）

◇相撲

京谷篤志（参段）、飯田浩之（貳段）、金森優太（貳段）、鳥山崇（参段）、中山綾太（参段）

◇空手道

秋山聡（教士七段）、水谷暢孝（錬士六段）、徳野善彦（六段）、峯真太

◇合気道

郎（錬士六段）、中泉剛士（六段）、江尻昌広（五段）

◇少林寺拳法

永田昌範（正範士八段）、藤井省吾（正範士七段）、荒井章士（准範士六段）、加藤明（大拳士五段）、小澤里菜（正拳士四段）、高橋育恵（正拳士四段）

◇なぎなた

安井みどり（教士）、林香予子（五段）、戸田千恵（五段）、櫻井真理（四段）、安藤有美（四段）、藤井香代（四段）

◇銃剣道

松田健治（範士八段）、辛嶋富夫（教士八段）、松富敬（教士七段）、八坂綾（教士七段）、北慎一郎（錬士七段）、西村健（錬士六段）

◇柳生新陰流兵法剣術

柳生耕一（二十二世宗家）、福安實夫（指導補佐）、野村明徳（指導補佐）、川崎元士（指導補佐）

◇沖繩剛柔流武術

蔵元雅一（七段）、知念邦明（参段）、新屋光（貳段）、松井啓喜（貳段）

◇水鷗流居合剣法併伝正木流鎖鎌術

勝瀬善光（十五代宗家）、内田康正（大目録）、池田育生（中目録）、久永覺（居合道五段）

◇記録

後閑信弥（棟クエスト）

団長以下総勢75名

好評発売中

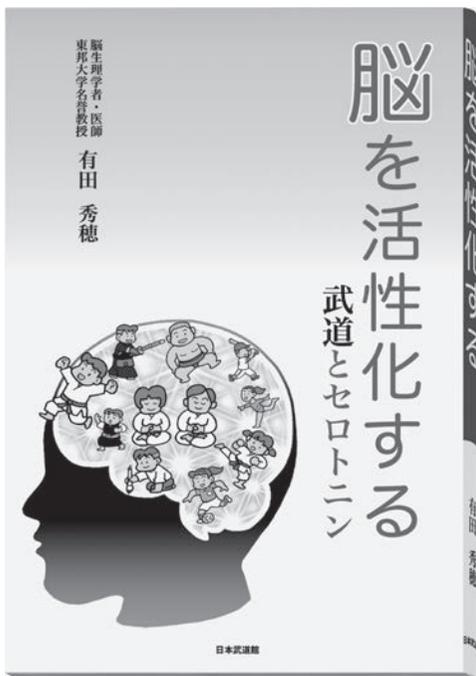
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税



有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

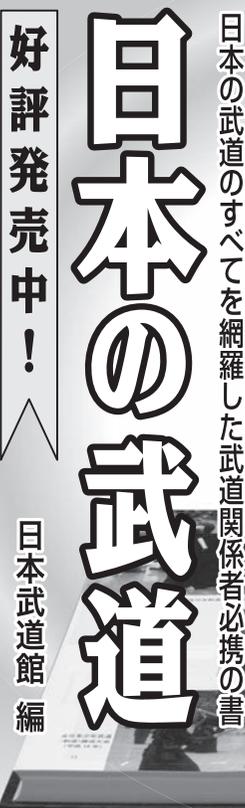
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道 剣道 弓道 相撲 空手道 合気道
少林寺拳法 なぎなた 銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!
日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすずめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」(武道憲章英訳文)「ごも武道憲章」
カラー口絵(日本武道館、9武道+日武協30年のあゆみ)

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：
村田直樹 講道館図書資料部長
大保木輝雄 埼玉大学教授

第4節 武道の魅力…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第5節 学校武道の歴史…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第6節 武道の教育力…………… (財)日本武道館

第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会

第2節 全国都道府県立武道館協議会

第3節 日本武道学会

第4節 日本古武道協会

第5節 武道学科等設置大学 ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図

第2節 日本武道協議会武道功労者一覧

第3節 全日本選手権大会優勝者一覧

第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授

第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授

第6節 武道主要参考図書

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

天皇杯第66回 全日本相撲選手権大会



優勝＝西郷智博選手(鳥取県庁)



西郷智博 (鳥取県庁) が初優勝

第66回全日本相撲選手権大会(主催Ⅱ日本相撲連盟)は昨年12月3日、両国・国技館で開催された。2500名の観衆が詰めかけ、全国から社会人33名・大学生33名・高校生2名の総勢68名が出場し、アマチュア相撲日本一を目指した。大会では西郷智博(鳥取県庁)が、三輪隼斗(新潟県)を破り、初優勝を飾った。社会人の優勝は6年ぶり。

1・2・3回戦

大会は、予選を3回行つて優秀選手37名を決定し、決勝トーナメントが行われた。

昨年の全国選抜大学・実業団相撲刈谷大会優勝の木崎伸之助(日本大)は、2回戦で3年前の全国学生相撲選手権者の黒川宏次郎(拓殖大)を突き落して勝利。3回戦では富栄秀樹(東農大)を回り込んで押し出し、準々決勝に勝ち進む。

一昨年の国民体育大会成年の部優勝の西郷智博(鳥取県庁)は、2回戦で岡田祐輔(アイシン精機)を押し出し、3回戦では昨年の国体成年の部優勝の城山聖羅(東洋大)のもの

ろ手突きを物ともせず、電車道で寄り倒して4年ぶりのベスト8へと駒を進めた。

一昨年の世界相撲選手権大会中量級優勝の三輪隼斗（新潟県）は、2回戦で古川晴貴（日本大）を押し出し、3回戦では重松龍大（東洋大）を低い姿勢から一気に押し出して初

の準々決勝に進出。

前回ベスト8の古川貴博（日本大）は、2回戦で全国学生相撲選手権大会2位の本林健治（近畿大）を突き落とし、3回戦では前回初出場ベスト8だった寺沢樹（東洋大）を右に叩いて押し出して降す。古川は2年連続でベスト8に進出した。

準々決勝

木崎伸之助 ○叩き込み 村山大洋

木崎の対戦相手は、前回準優勝の深井拓斗（東洋大）を降した村山大洋（新潟県）。

立合いから両者激しく押し合う。木崎に押された村山が土俵際で踏ん張り、負けじと木崎を押し返す。しかし、ここで村山の足が流れる。木崎は、そのまま村山を叩き込むと土俵にバツタリ。木崎は初のベスト4進出となった。

西郷智博 ○寄り切り 黒川宗一郎

西郷は、昨年の全日本実業団決勝で敗れ、過去に上位入賞を果たしてきた黒川宗一郎（アイシン軽金属）と因縁の対戦。黒川が右を差しに行くと、西郷は上手で廻しを掴みにいく。西郷は左で黒川の前禰をしつかり持ち、下から押していく。黒川は堪らず体を開くと、西郷は勢い良く寄り切る。西郷は雪辱を果たして初のベスト4に勝ち上がった。



3回戦＝西郷智博（右）が寄り倒す



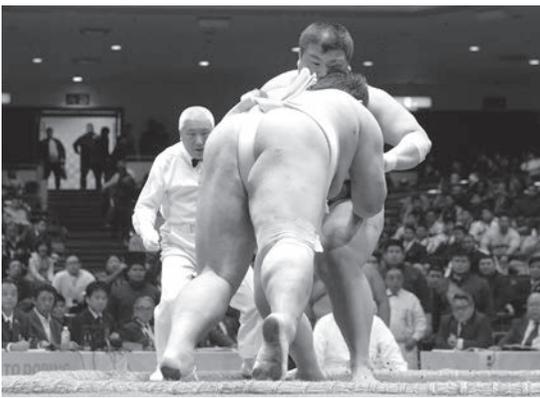
3回戦＝木崎伸之助（右）が押し出す



3回戦＝古川貴博（右）が押し出す



3回戦＝三輪隼斗（右）が押し出す



準々決勝Ⅱ叩き込む木崎伸之助（奥）



準々決勝Ⅱ西郷智博（左）が寄り切る

三輪隼斗 ○押し出し 西方航

ともに日体大出身の同門対決。立合いで、一年先輩の西方は三輪を突き放して上手を与えない。三輪は突き放して腰が引けた西方に、低い姿勢で前に出て攻める。堪えた西方だったが、三輪が低い姿勢で西方の右前禪を引いて土俵際に追い込む。最後は三輪が西方を押し出して勝利。手の内を知り尽くした仲での厳しい戦いを制した三輪が、準決勝へと進んだ。

古川貴博 ○寄り倒し 吉田圭祐

大学生の古川と全日本実業団優勝経験のある吉田圭祐（アイシン精機）。吉田は仕切り線から離れた位置から突っ張っていく。これをいなす古川。吉田は門で極めにかかる。さらに小手投げで攻める。残した古川が密着して前に出て、最後は寄り倒して勝利。古川は左肘を痛めながらも最後まで前に出続けて、初めてのベスト4となった。

準決勝

西郷智博 ○押し出し 木崎伸之助

鳥取城北高出身の同門対決。西郷は「先輩の木崎に負けられない」と口にした。

立合いから木崎は右を差し、西郷を押し込む。これを凌いだ西郷が今度は勢い良く木崎を押し出した。

同門対決を制した西郷が、決勝の舞台へと勝ち上がった。

三輪隼斗 ○寄り倒し 古川貴博

日本大の同門対決となった。立合いはともに頭で当たっていく。左四つになり、三輪が攻めに出る。古川は半身を残して堪えるが、三輪は古川の前廻しを取って試合を有利に進める。古川がこれを嫌い、抜こうとしたところを三輪が崩して寄り倒し、三輪が決勝進出を決めた。



準々決勝Ⅱ三輪隼斗（手前）が押し出す



準々決勝Ⅱ古川貴博（左）対吉田圭祐



準決勝Ⅱ西郷智博（奥）が押し出す



準決勝Ⅱ三輪隼斗（左）対古川貴博

決勝

決勝は、鳥取県庁の西郷智博と、新潟県糸魚川市体育協会の三輪隼斗の社会人同士の対戦となった。体を生かした持ち味のある豪快な攻めを見せ、城山や黒川など強豪を降して勝ち上がってきた西郷。対するは、110kgで小柄ながらも前に出て攻め続けた三輪。両者は初横綱を目指して覇を競った。

西郷智博 ○押し倒し 三輪隼斗
立合いから、三輪がもろ手突きを

繰り出して前に出ていく。西郷は三輪に突き放されて組めない。三輪が一瞬引いて今度は叩きにかかる。西郷はこの動きを冷静に見極め、すかさず下から突き出すように攻める。西郷の反撃で三輪の upper body が浮くと三輪は防戦一方に。最後は西郷がそのまま三輪を押し倒して勝負あり。西郷は悲願のアマチュア横綱の座に輝いた。社会人の優勝は2011年の松永^{まつながむと}六十四以来6年ぶりとなる。



決勝＝西郷智博（手前）が三輪を押し倒す



決勝＝アマチュア横綱の座に就いた西郷智博

「このタイトルは宝物」7度目の挑戦で悲願達成

◎優勝Ⅱ西郷智博四段（鳥取県庁）



社会人になり、やっと掴んだアマチュア横綱のタイトルに「このタイトルは本当に宝物になります」と喜びを爆発させた。

鳥取城北高校、日本大学と強豪校に在籍するも、学生時代はタイトルに恵まれず、本大会では大学4年生時のベスト8が最高成績。「（一昨年まで）タイトルを獲ったことがなかったので、まさか自分が優勝できるとは思いませんでした」と思わず本音を漏らした。

勝因については、「今日は足が良く出て、迷わずに自分の相撲が取り切れました」と語る。

本大会を振り返り、「自分のブロックは（強豪が多くて）厳しかったです。特に城山選手は国体の決勝で負けていたので」と苦しい戦

いだったことを明かした。

しかし、「体の動くままにいろいろ思っていました。そんなに焦りはなく、余裕がありました」と語る様子は、決勝戦で見せた冷静沈着な戦いぶりを物語っていた。

現在は、鳥取県庁スポーツ課に勤務。退勤後は毎日、母校の鳥取城北高校の外部コーチとして指導に当たっている。「後輩の良いお手本になれたかな」と笑顔で語った。

高校生の指導をする中で、自身の相撲に変化があったと言う。「大学までは頭で当てる押し相撲でしたが、高校生に胸を出すようになり、胸で受ける相撲に変わりました。そこからは良い成績が残せるようになりました」

西郷の必勝型の完成である。角界からの誘いにも「魅力はあったけど、僕はどうしても社会人として指導がしたかった」と自分の夢を貫き、その結果が実を結んだ。

今後は「通算10回出場表彰を目標に頑張りたい」と謙虚に語った。

○準優勝Ⅱ三輪隼斗四段（新潟県）



「調子も良く体が良く動きました
が、決勝までいけると思っています
でした。前に出て攻める意識を持
って自分の相撲を取り切れたと思
います。前回の最高成績ベスト16を
超えることができて良かったです。」

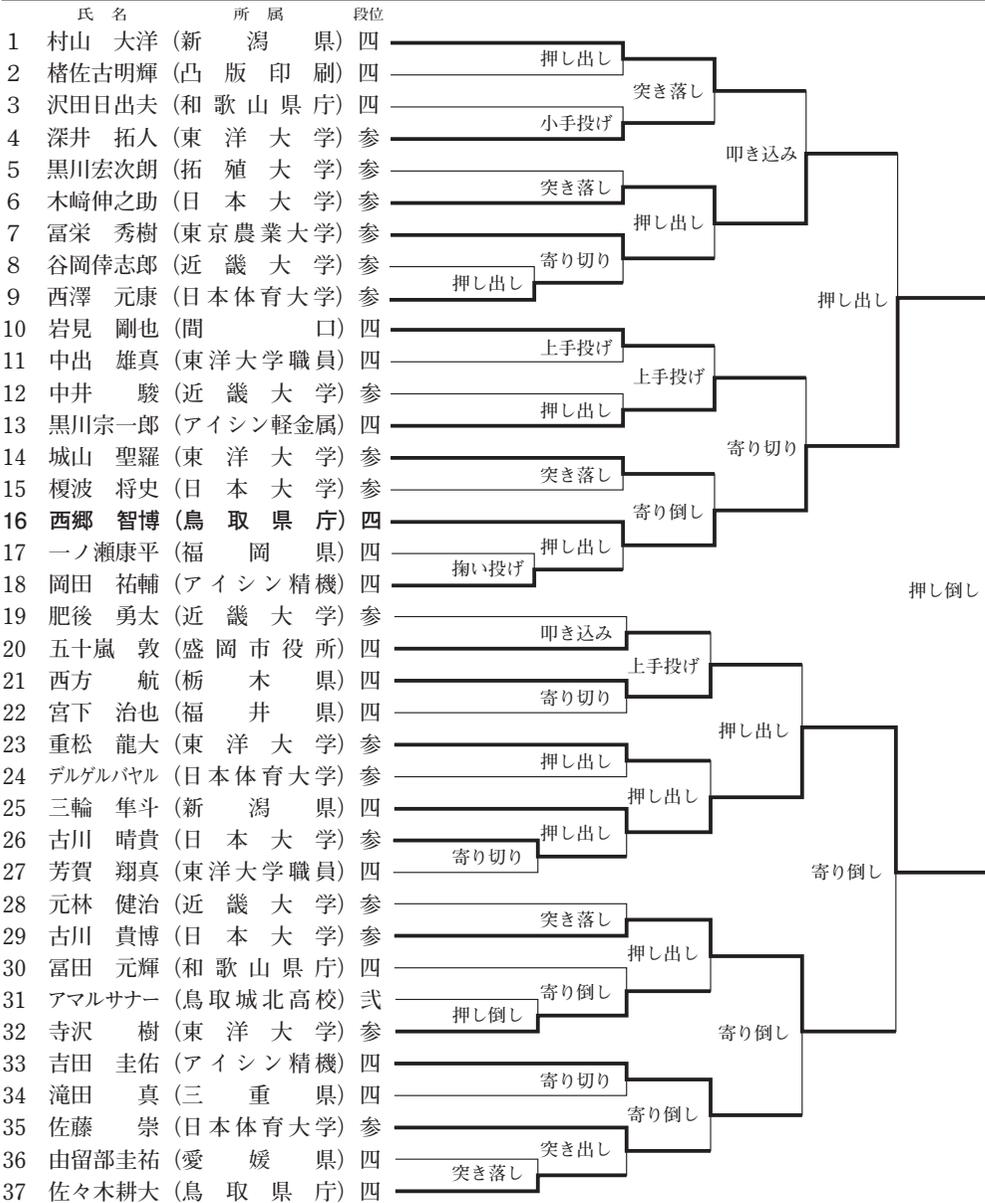
西郷選手とは全国大学選抜相撲宇
佐大会で、大学1年と4年の時に当
たって負けています。今回は勝ちた
かったです。

今は糸魚川市体育協会に務めなが
ら、新潟県立海洋高校で相撲を指導
しています。学生時代に比べて練習
量が減りましたが、日頃から四股を
踏んで、試合前にはぶつかり稽古を
しています。勝つためにはもつと厳
しい稽古をしないとダメですね。

（準優勝したこと）もうちよつと
勝てるんじゃないかと自信がつきま
した。全日本は優勝したので、来
年は頑張ります」

第66回全日本相撲選手権大会

(決勝トーナメント)



優勝・西郷 智博（鳥取県庁）

準優勝 三輪 隼斗（新潟県）
三位 木崎伸之助（日本大学）
古川 貴博（日本大学）

JOCジュニアオリンピックカップ 第30回全日本小学生相撲優勝大会



小学6年生の部＝
左から市来崎、相野、鈴木、山下



小学6年生の部・決勝＝
市来崎大祐（右）が押し出す



小学5年生の部＝
左から西島、西出、臼田、上原



小学5年生の部・決勝＝
西島悠来（左）が寄り倒す



小学4年生以下の部＝
左から倉岡、児玉、山下、西村



小学4年生以下の部・決勝＝
倉岡優太（右）が叩き込む

全日本相撲選手権大会の予選と本選の間に、JOCジュニアオリンピックカップ第30回全日本小学生相撲優勝大会が行われた。大会は、小学生の最高峰の競技会であり、各ブロックの相撲連盟が各々大会を実施し、出場代表選手を決定。大会には小学6年生、5年生、4年生以下の3部門に各33名、計99名の代表選手が出場し、熱戦が展開された。

小学6年生では、前々回優勝の市来崎大祐（鹿児島）が相野祥吾（千葉）を両上手で押し出して2年ぶりの優勝を飾った。

小学5年生では前回3位の西島悠来（千葉）が前回優勝の西出大毅（和歌山）を左で差し、寄り倒して優勝。

小学4年生以下では倉岡優太（熊本）が左に変化し、児玉颯飛（東京）を叩き込んで初優勝を果たした。

【大会結果】

■小学6年生

◎優勝 市来崎大祐（鹿児島県）

○準優勝 相野祥吾（千葉県）

▽3位 鈴木真実（静岡県）

▽3位 山下昇介（鹿児島県）

■小学5年生

◎優勝 西島悠来（千葉県）

○準優勝 西出大毅（和歌山県）

▽3位 臼田哲朗（愛知県）

▽3位 上原煌貴（石川県）

■小学4年生以下

◎優勝 倉岡優太（熊本県）

○準優勝 児玉颯飛（東京都）

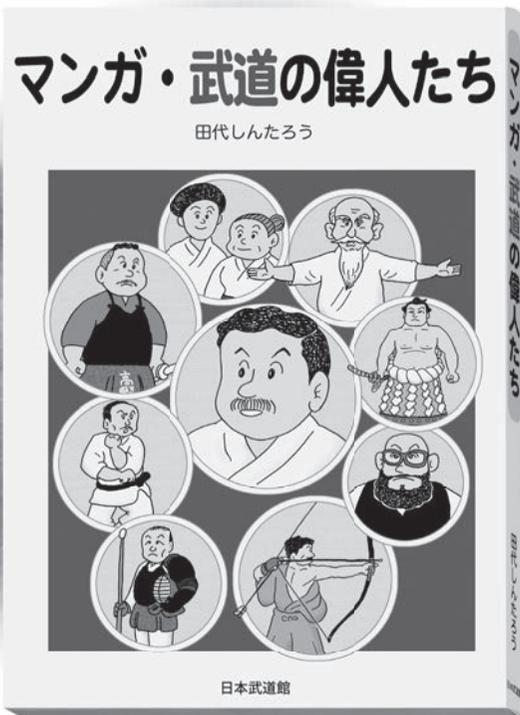
▽3位 山下正清（鹿児島県）

▽3位 西村和真（京都府）

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！



B5判・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子どもも楽しく読んで、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鶴沢尚信(銃剣道)



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行 書籍のご案内



大東流合気柔術 琢磨会 その技法と合気之術



大東流合気柔術琢磨会総務長 森 恕 著

中興の祖・武田惣角から久琢磨に、そして森恕に受け継がれた神秘の武術。小手を駆使した関節技・急所技から、抜き合気・入れ合気・触れ合気・前肩詰め合気などの合気之術まで、今まで門外不出とされてきた数々の技法の神髄と極意を、琢磨会総務長が明らかにする。

四六判・上製・238頁・2000円+税

写真と記事 でたどる 武道の近代史



杉江正敏 著

月刊「武道」1999年1月号から2001年3月号までの27回連載をまとめた杉江正敏先生のライフワーク。明治以降出版された諸雑誌の記述から、武道を取り巻く日本文化や、体育・スポーツ全般にわたる内容を掲載した記事を紹介する形で、武道がどのように近代化へと歩みを進めてきたのかを明らかにするための基礎資料集。

B5判・182頁・本体1,000円+税

伝えたい日本のこころ



絵と文 中村麻美

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45話を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

F4判・上製・96頁・本体2,700円+税

日本の古武道



古流武術研究者 横瀬知行 著

直接取材による2000枚の写真と未公開資料で古流の全貌を紹介！日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が、一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

B5判・上製・箱入・462頁・本体5,000円+税

平法 天真正伝香取神道流

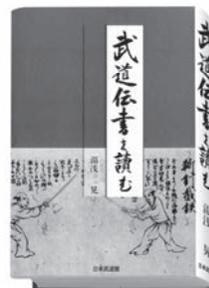


天真正伝香取神道流師範 大竹利典 著

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法(へいほう)」の思想について語る。

四六判・上製・296頁・本体2,400円+税

武道伝書を読む



天理大学教授 湯浅晃 著

新たな視点で伝書に問いかける…。具体的な関心や課題に照らして主体的に伝書を読んでください。技術・教育・経営・管理・思想、生き方、人間関係が学べます。

四六判・上製・348頁・本体2,400円+税

お問合せ・ご注文は
こちらまで

公益財団法人 **日本武道館** TEL 03-3216-5147 / FAX 03-3216-5158

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 <http://www.nipponbudokan.or.jp>



決勝＝林田（左）が面に出る

林田智笑^(大阪)が 初優勝に輝く

皇后盃第62回
全日本なぎなた選手権大会

皇后盃第62回全日本なぎなた選手権大会（主催）全日本なぎなた連盟が、昨年12月3日、浦安市運動公園総合体育館メインアリーナにおいて開催された。各都道府県から勝ち進んだ選手55名が、なぎの線を生かした気位のある正しいなぎなたでの勝利を目標とし、試合に臨んだ。

決勝は、林田智笑（大阪）と安喰愛（島根）が対戦。延長の末、林田が判定で安喰を制し、初優勝に輝いた。3位には、昨年覇者の山本千代（和歌山）を降した塚本紀衣（和歌山）が入賞を果たした。

大会はトーナメント戦で行われ、試合時間は5分とし、時間内に勝敗が決しないときは判定とした（決勝のみ3分1回の延長あり）。

準決勝には、11月12日の第60回西日本なぎなた選手権大会で優勝を果たしている林田智笑（大阪）と塚本紀衣（和歌山）、山本千代（和歌山）と安喰愛（島根）が勝ち上がった。

◆準決勝①

林田智笑 判1 塚本紀衣

両者は、中段の構えから出端を捉えようと激しい攻防をみせる。塚本の面に対して、上手く間合をとって有効打突を決めさせない林田。近間となり、林田は下段の構え、塚本は八相の構えをとり、膠着する。間合を切って攻めに転じたのは林田。面、すねと攻め入るが、試合は終了。赤旗3本が上がり、林田が初めて決勝戦へと駒を進めた。

◆準決勝②

安喰 愛 判1 山本千代

過去4回優勝経験のある安喰と、3連覇を狙う山本による優勝経験者同士の対決。互いに手の内は知り尽くしている。近間から両者は八相に構えて機を窺う。安喰は間合をとり、相中段からすねを狙う。対して山本は3連覇への重圧を感じたのか、十分な攻撃に出られない。旗判定により、山本の連覇は途絶え、安喰が決勝に進出した。

◆3位決定戦

塚本紀衣 判1 山本千代

和歌山県の実業・後輩対決となった。両者は常日頃から稽古を行っていた。両者は「胸を借りて、いくいる仲である。」と意気込む塚本。旧知の「知らない」と意気込む塚本。旧知の仲だからこそ、互いに全力で挑んだという。相中段となる両者。塚本は、切先を外して、すねに出る。負けじと山本も面に飛ぶ。塚本は有効打突は取れないものの、その後も二段打ちなど手数を重ねていく。山本が構

え直した瞬間、その隙を塚本は見逃さず、すねを打つ。しかし、これは一本とはならない。そのまま5分が経過して、軍配は塚本にあがった。

▽3位Ⅱ塚本紀衣四段(和歌山)

「3位決定戦は、いつも練習させていたでいる山本先輩との試合でしたので、一番緊張しました。まだまだ未熟な身ですので全力でやるだけです。気持ちが一番大事だと思っていますので、チャンスに思い切っ出ていきました」



準決勝①=攻めに転じる林田(左)



準決勝②=巧みな攻撃をみせる安喰(右)



3位決定戦=すねに飛ぶ塚本(左)

◆決勝

林田智笑 判一 安喰 愛

初優勝を目指す林田と、5度目の優勝を狙う安喰の対戦。観衆は固唾を呑み、水を打ったかのような静けさの中、試合は始まった。

林田は中段からすね、面と連続技を繰り出し積極的に攻めていく。近間では、互いに下段の構えをとって

相手の出方を窺う。安喰がその間合を切つてすねを狙うが、林田はそれに合わせて抜きすねを繰り出した。

一本とはならないものの必死に攻め続けようとする林田。延長に入つても、林田が攻める展開が続き、林田からの息づかいだけが場外に聞こえてくる。試合はそのまま終了し、旗判定により林田が勝利。見事、初優勝に輝いた。



決勝＝必死に攻め続ける林田（左）

◎優勝Ⅱ林田智笑四段（大阪）

▼初優勝となった

「小さいときからずっとこの大会を見てきたので、『自分が優勝!』と、実感が湧かなくて呆然としてしまいました（笑）」

▼大会に向けて取り組んできたこと
「自分の課題は相手を見すぎてしまい、前に出られないことです。ですので、この大会に向けて、誰と試合

するときも迷わず、自分が今と想つた瞬間に出るということを意識して練習してきました」

▼準々決勝以降の試合について

「安喰選手、塚本選手、志藤選手の3人とも先輩ばかりですので、『自分のなぎなたをしよう』ということしか頭になかったですね」

▼決勝の勝因は

「攻めを繋げられたことだと思えます。近間での攻防では、相手に隙をあたえないようにしようということと、自分の間合で攻めて、たくさん技を出すことを意識していました」

▼今後の抱負について

「しっかりと打ち切つて一本となるような、武道らしいなぎなたを目指したいです」

○準優勝Ⅱ安喰愛五段（島根）

「去年は選手権に出ていなくて久しぶりでした。こうして様々な選手と試合ができて、その試合ごとでその選手を知っていくことができます。

感謝の気持ちしかありません。決勝戦の林田選手は若いですし、良く動きます。警戒していた部分はありましたが、私は気迫が足りなかったですね。気持ちの強さで負けたのだと思います。今は子どもたちにも指導しています。子どもたちに『なぎなたっていいな』と感じてもらえるような試合をしていきたいです」



左から塚本紀衣四段、林田智笑四段、安喰愛五段

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の
苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るま
で、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り
返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い
上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、
武道指導者必読の一書。

◇第1章多感な少女時代 ◇第2章薙刀術教員養成所
◇第3章卒業 ◇第4章なぎなた教師◇第5章全日本なぎなた連盟結成 ◇第
6章財団法人化 ◇第7章体協加盟と国体参加
◇第8章生涯続くなぎなたの道



私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永千代子 著

(四六判・上製・252頁)



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行！海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。



贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編

(四六判・上製・366頁)

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



武道伝書を読む

天理大学教授
湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。



なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長
長濱 文子 著

(四六判・上製・356頁)

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

第17回全日本男子なぎなた選手権大会

板垣勇(長崎)が5度目の優勝



決勝＝攻撃を仕掛ける板垣勇(左)

第17回全日本男子なぎなた選手権大会が、皇后盃前日の12月2日、浦安市運動公園総合体育館メインアリーナにて開催された。大会には、各都道府県や大学から男子選手47名が出場し、覇を競った。

決勝は、板垣勇(長崎)と藤田智也(三重)の対戦。延長の末、判定で板垣が勝利し、5度目の優勝を飾った。3位には、増田道仁(兵庫)が増田良明(兵庫)との親子対決を制して入賞した。

大会はトーナメント戦で行われ、試合時間は5分、時間内に勝敗が決しないときは判定とした(決勝のみ3分1回の延長あり)。

準決勝には、5度目の優勝を目指す板垣勇(長崎)、前回優勝の増田道仁(兵庫)、藤田智也(三重)と、増田(道)の父である増田良明(兵庫)が勝ち上がった。

板垣と増田(道)の準決勝では、

板垣が自分の間合で巧みに攻撃を仕掛けて、判定勝ちとなる。

藤田と増田(良)の準決勝では、藤田が面で先取するものの、増田も面を決める。しかし、藤田は直ぐさま抜きすねで二本目を決めた。二本目は勝手に身体が動いたという藤田が決勝に進出した。

◆決勝

板垣 勇 判— 藤田智也

判定勝が多いものの、相手の動きに怯むことなく勝ち進んできた板垣。対して藤田は決勝まで確実な一本を取って、勝ち上がってきた。

藤田は勝負に出るため間合を切ろうと試みるが、それを見逃さず詰めて行く板垣。試合は3分間の延長に突入する。藤田が遠間からの攻めに転じようとするが、板垣は絶妙なタイミングで攻撃を仕掛けその隙を与えない。終始、板垣が主導権を握って終了。判定により、板垣が5度目の優勝を飾った。

◎優勝II板垣勇四段(長崎)

「この大会に向けては、YouTubeなどで、若い選手の試合を研究して

きました。今の選手の試合は展開が早いですね。自分は若くはありませんので、中段の構えを大切に、確実な一本を取れるような、なぎなたを心がけて決勝に臨みました。そして最後は、自分が感じたまま試合をしようという意識でした。自分らしい試合ができたと思います。準々決勝、準決勝と昨年、一昨年の覇者との対戦でしたが、特に意識することなく、落ち着いていこうというこただけでしたね。なぎなたは24歳から始め、今年で22年目となります。同世代の多くの方からは、大会では優勝しろというよりは、気持ちのこもったなぎなたを見せてほしいと言われます。それが結果に繋がったのだと思います。皆様に感謝ですね」

○準優勝Ⅱ藤田智也三段(三重)

「決勝ではバテてしまつて、一本を取れずに負けてしまいました。自分なぎなたの試合をする上で、必ず一本を取るという意識で戦っています。いままで表彰台に乗らずじまいでした。その都度先生方には、素質を持っているのに、と指摘されます。来年は優勝を目指したいです」

◆3位決定戦

増田道仁 メモー 増田良明

親子対決となった3位決定戦。道仁選手にとつて、良明選手は父であるとともに選手としての理解者にもなっている。過日行われた西日本な

ぎなた選手権では、決勝で両者の対戦が実現しており、道仁選手が優勝を果たしている。

積極的に攻めてくる増田(良)に對して、間合をとろうとする増田(道)。相手の起こりを捉えようと心がけたという増田(道)が出端面、



3位決定戦=増田道仁(右)が出端面で先取る

こて抜き面と二本決めて勝利。父との試合を心から楽しんだという増田(道)が3位に入賞した。

▽3位Ⅱ増田道仁二段(兵庫)

「3位決定戦は、父との試合となりました。どちらかが負けてしまうので複雑な気分での試合でした。試合が終わった後、父に『ありがとうございました』と声をかけると『ありがとう』と返してくれました。喜んでくれていたらいいですけどね。初めてこの大会に出場した5年前から父とはいつか決勝戦で勝負すると約束しています。その時は現実味はありませんでしたが、この数年、目標として捉えるようになってきました。来年は決勝戦でやりたいですね」



左から増田道仁二段、板垣勇四段、藤田智也三段

日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

〈目次〉

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(三馬術)

日本武道館の歴史

日本武道館の歴史

日本武道館の歴史

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か
—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道
子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)

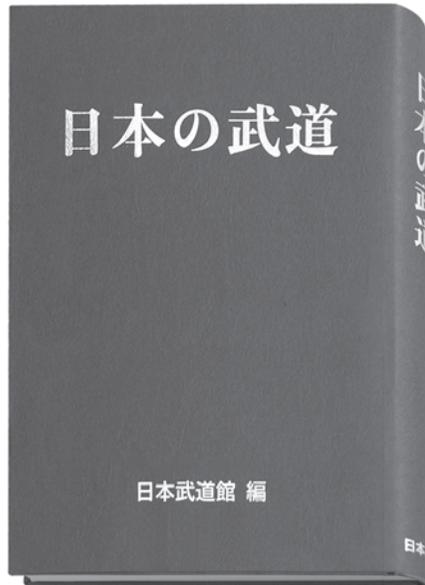


大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法なびなた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



(B5判・上製・箱入・526頁)

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書
日本の武道

日本武道館 編



グランドスラム東京 2017

JUDO GRAND SLAM TOKYO 2017



男子 100kg 超級決勝=小川雄勢 (左) 対クルパーレク

小川雄勢(男子 100kg 超級)が初制覇

日本で開催される唯一の国際大会である柔道グランドスラム東京2017(主催II国際柔道連盟、主管II全日本柔道連盟)は昨年12月2日・3日に、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で開催された。

男子100kg超級では小川雄勢(明治大)が14分にわたる接戦を制し、初優勝を遂げた。男子66kg級で阿部一二三(日本体育大)、女子52kg級で阿部詩(夙川学院高)が金メダルを獲得し、兄妹揃って頂点に立った。

■男子

▽60kg級

決勝は、リオ五輪銅メダルの高藤直寿(パーク24)とダシユダワ(モングル)が対戦。序盤、高藤は手がつり、かばう仕草を何度も見せる。高藤は極端な防御姿勢で指導1を取られながらも、ダシユダワの猛攻を凌いでいく。試合は、両者決めきれないままゴールデンスコア(以下GS)へ。GSに入ってからダシユダワは力強く足を掛けて攻め続けるが、高藤は上手く躲かしていく。GS開始56秒、高藤がダシユダワの一瞬の隙について背中を掴み、浮落を繰



男子 60kg級決勝＝高藤直寿（上）が浮落で一本勝



男子 66kg級決勝＝阿部一二三（右）対丸山城志郎



男子 73kg級決勝＝立川新（右）対マルゲリドン

▽81kg級
 昨年11月の講道館杯で優勝した佐々木健志（筑波大）は、3回戦でサントス（ブラジル）に一本負けを喫する。山本悠司（天理大）、藤原崇太郎（日体大）、小原拳哉（パーク24）も3回戦で敗退した。決勝はオ

「ここで勝っておかないと、東京五輪の代表争いに加わることはできないので、なんとしても今回は勝っておきたいと思っていました。まだスタートラインに立ったただけだと思うので、これから国際大会でも結果を残していきたいと思えます」

り出す。合議の結果、これが一本となり試合終了。今年の世界選手権日本代表に内定した高藤は、2020年に向けて順調な船出となった。
 ◎優勝Ⅱ高藤直寿選手（パーク24）
 「今回の優勝で東京五輪に一步近づけたと思うので、非常に意味のある大会だったと思います。リオデジャネイロで金メダルを逃したことが悔しかったので、東京で金メダルを獲れるように頑張っています」

▽66kg級

決勝には、一昨年優勝した阿部一二三（日本体育大）と、昨年11月の

講道館杯で優勝した丸山城志郎（ミキハウス）が勝ち進んだ。開始から低い姿勢での組手争いとなり、両者に極端な防御姿勢として指導1が入る。膠着した試合が続き、阿部に消極的として指導2が入る。試合はGSに突入すると、阿部が片手で技を掛けにいくなど、攻めを強めていく。丸山は阿部の攻めに後手に回ってしまい、組み合わせなしとして指導2を重ねる。GS開始52秒、阿部が内股から大内刈に変化すると、これが一本となる。ブダペスト世界選手権も制した阿部は、今回の優勝で高藤とともに、今年の世界選手権日本

▽73kg級

リオ五輪金メダリストの大野将平（旭化成）は2回戦で右膝を痛め、3回戦は棄権した。決勝は、橋本壮

代表に内定した。
 ◎優勝Ⅱ阿部一二三選手（日本体育大）
 「世界選手権が終わってからは周りから注目されるようになり、それでもしつかり勝てたのは、自分にとってプラスになったと思います。まだまだ未熟で、甘いところもあると思いますが、日本の柔道を引っ張っていきけるような選手になりたいと思います」

▽81kg級

◎優勝Ⅱ立川新選手（東海大）

市（パーク24）を準決勝で降した立川新（東海大）と、準決勝で野上廉太郎（筑波大）を降したマルゲリドン（カナダ）が対戦。試合序盤、マルゲリドンに首抜きで指導1が入る。その後は互いに奥襟を掴んで攻めるが、決め手に欠けてGSに突入する。互いに攻めあぐねて組手争いが続く中、マルゲリドンが再び首抜きで指導を取られて試合終了。立川は金メダルを獲得し、グラウンドスラム初制覇を果たした。



男子90kg級決勝=長澤憲大(左)が内股巻込で一本勝



男子100kg超級決勝=小川雄勢(右)が攻める

トゴンバートル(モンゴル)とイ・ソノホ(韓国)の対戦。中盤、オトゴンバートルが、巴投でイを崩して腕を取り、腕挫十字固で一本勝。

▽90kg級

ブダペスト世界選手権で男女混合団体戦金メダルメンバーの長澤憲大(パーク24)と、昨年11月の講道館杯で3位に入賞した小林悠輔(旭化成)が決勝で対決。長澤は、開始から小林の奥襟を掴んで主導権を握る。試合開始31秒、長澤が組手争いから、内股巻込を決めて一本勝。長

澤は、昨年5月に行われたグラランドスラム・エカテリンブルグでも金メダルを獲得。ブダペスト世界選手権男女混合団体を合わせて、今期3個目の金メダルを勝ち取った。

◎優勝Ⅱ長澤憲大選手(パーク24)

「講道館杯の準決勝で負けて、ずっと練習してきたので、最後に勝てて良かったです。ただ優勝できたことは嬉しいですが、僕はここで満足してはいけないと思っています。一つ一つの試合に勝っていったら、その先の東京五輪を目指して頑張っていきたいです」

▽100kg級

日本人では、昨年2月に行われたグランドスラム・パリで優勝した飯田健太郎(国士舘大)の7位が、この階級での最高成績となる。熊代佑輔(ALSOK)、西山大希(新日鐵住金)、下和田翔平(京葉ガス)は3回戦で敗退した。決勝には、準々決勝で飯田を破ったチョ・グハム(韓国)と、3回戦で下和田を降した、世界ランク1位のコレル(オランダ)が勝ち上がる。試合はGSに突入。コレルが消極的として指導3を受け、チョが反則勝で優勝した。

▽100kg超級

一昨年優勝した王子谷剛志(旭化成)は準々決勝で、リオ五輪100kg級金メダリストのクルパーレク(チエコ)に小外刈で一本を決められ、敗退。決勝は、準決勝で上川大樹(京葉ガス)を破った小川雄勢(明治大)と、クルパーレクの顔合せ。両者、技につなげることができず、互いに消極的として指導1が入る。試合はGSに突入し、小川は支釣込足で技有を奪うが、合議の末、技有が取り消しとなる。その後も互いに奥襟を掴んで、小川は払腰、クルパーレクは隅返を狙うが決め切ることができない。GS開始10分過ぎ、クルパーレクが消極的として指導2を取られて、小川が反則勝。GSを含めて14分を超える熱戦を制した小川は、会場から拍手で称えられた。

◎優勝Ⅱ小川雄勢選手(明治大)

「疲れました。最後の方はどんな技を出そうとかは考えず、気力だけで戦っていました。今回がゴールではなく、まだスタートしたばかりです。今後はこの優勝におごらず、まずは世界選手権に目標を定めて、頑張りたいと思います」

女子

▽48kg級

準々決勝で渡名喜風南(帝京大)との日本人対決を制した近藤亜美(三井住友海上)と、前回の覇者ムンフバト(モンゴル)による決勝戦。開始から、近藤が足を使って果敢に攻めていくが、ムンフバトも力強い体幹で近藤の技を堪える。試合は互いに決め手がないまま、GSに突入する。GS開始43秒、ムンフバトが背負投を試みるが、近藤は上手く躲す。崩れたムンフバトに近藤はさすがに上四方固でぐっすり抑え込んで

一本勝。近藤は2年ぶり4回目の優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ近藤亜美選手(三井住友海上)

「私が何年も引つ張ってきたこの階級を、簡単に渡すことはできません。東京五輪に向けてどんなことも乗り越えて、また次に向かって頑張りたいと思います。久々に笑って終わることができました。今日は楽しかったです」

▽52kg級

ブダペスト世界選手権で優勝した志々目愛(了徳寺学園職)は準々決勝で阿部詩(夙川学院高)に敗退。

決勝には志々目を破った阿部と、立川莉奈(福岡大)が勝ち進み、昨年の講道館杯の決勝と同じ組合せとなった(講道館杯は阿部が大外落で技有を奪って勝利)。試合は、阿部が

開始から立川の引手を離さず圧をかけていく。開始46秒、阿部が素早く立川の懐に飛び込み、豪快な背負投で一本勝。3年前に兄・一二三選手が初優勝した時と同じく高校2年生での初優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ阿部詩選手(夙川学院高)

「今日のコメダルで、自分の成長をみんなに示すことができたと思います。ここで満足せずに、もっと進化

して、強くなり、見ている人が驚くような柔道をしていきたいと思えます。2020年の東京五輪でそのような柔道を見せたいです」

▽57kg級

玉置桃(三井住友海上)、宇高菜絵(コマツ)はともに3位決定戦で勝利し、銅メダルを獲得。決勝には3連覇を目指す芳田司(コマツ)と5年ぶりの優勝を狙う山本杏(パーク24)が勝ち上がった。双方、組手争いから攻め口を探っていくが、消極的として両者に指導2が入る。GSに入ってから一進一退の攻防が



女子48kg級決勝=近藤亜美(上)が上四方固一本



女子52kg級決勝=阿部詩(下)が背負投で一本勝



女子57kg級決勝=芳田司(下)が一本背負投で技有

続き、互いに技までつながらない。GS開始1分40秒、芳田が山本の右袖を掴むや否や、素早く一本背負投を繰り出し技有。芳田が接戦を制して、大会3連覇を成し遂げた。

◎優勝Ⅱ芳田司選手（コマツ）

「3連覇はできると思ってたなかったので、すごく嬉しいです。東京五輪まではまだ時間があるので、良いスタートが切れたかなと思います。今日はあまり調子が良くなく、不安な気持ちもあつたのですが、優勝できてホッとしています」

▽63kg級

決勝は、田代未来（コマツ）と鍋倉那美（三井住友海上）による、ここまで全て一本勝で勝ち進んできた両者の対決。試合開始直後から、鍋倉が果敢に内股を仕掛けるが、田代は足を使いながら躲して決めさせない。試合開始1分32秒、田代が鍋倉の引手を自分の体に巻きつけるようにして、払巻込で技有を奪う。鍋倉も取り返そうとがむしゃらに攻めていくが時間終了となり、万事休す。田代がグランドスラム東京初優勝を遂げた。



女子63kg級決勝＝田代未来（右）が払巻込で技有

◎優勝Ⅱ田代未来選手（コマツ）

「講道館杯では決勝で負けてしまったので、今回は挑戦者という気持ちで思い切って試合に臨もうと考えていました。最終的なゴールは東京五輪なので、まずは目の前の一つの試合に全力で臨んで頑張りたいと思います」

▽70kg級

ブダペスト世界選手権覇者の新井千鶴（三井住友海上）は順当に勝ち上がって決勝に進出。決勝の相手は、昨年11月の講道館杯で3位に入賞した大野陽子（コマツ）。試合中



女子70kg級決勝＝大野陽子（左）对新井千鶴

盤、攻め切れない両者に消極的として指導1が入る。その後、新井が出した一本背負投が偽装攻撃とみなされ、指導2を重ねる。大野も、再び消極的として指導2を重ね、互いに後がなくなる。ここから大野は足を使って徐々に攻めを強めていく。試合開始3分44秒、新井が消極的として3つ目の指導を取られて、大野が反則勝。大野が世界チャンピオンを降して初優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ大野陽子選手（コマツ）

「自分がやってきた柔道で立ち向かっていくという気持ちを持って臨みました。これからの試合に勝ち続け



女子78kg級決勝＝濱田尚里（右）が足送払で技有

て、来年の世界選手権で優勝したときによく次が見えてくると思っています。この優勝を世界選手権、オリンピックにつなげていけるように頑張ります」

▽78kg級

決勝には、昨年11月の講道館杯で優勝した濱田尚里（自衛隊体育学校）とスティーンフィス（オランダ）が勝ち進む。試合開始から、濱田が相手の奥襟を掴んで試合を優位に進める。スティーンフィスは攻め返すことができず、消極的、場外で指導2を重ねる。濱田のペースで試合が



女子 78kg超級決勝＝朝比奈沙羅（左）対素根輝

進み、試合開始3分37秒、濱田が組手争いから流れるように送足払で技有を奪う。そこから濱田は、倒れたステーションフィスにすかさず送襟絞を極めると、ステーションフィスは堪らず参った。講道館杯の勢いそのままに、濱田がグランドスラム初優勝を成し遂げた。

◎優勝Ⅱ濱田尚里選手(自衛隊体育学校)

「去年はこの大会に出られなくて、悔しい思いをしたので、今年は出て優勝しようと思ってました。これから一つ一つの大会で、しっかり結果を残して、世界選手権の代表になれるように頑張りたいと思います」

▽78 kg 超級

決勝は、前回の決勝と同カードの朝比奈沙羅（東海大）と素根輝（南筑高）の対戦。試合は開始から膠着した展開が続く、両者に消極的として指導1が入る。その後も互いに組手争いから機会を窺うが、なかなか活路を見いだせず、双方に指導2がつく。試合開始2分55秒、素根が釣手一本で担ぐと、掛け逃げと判断され、指導3。反則勝で朝比奈が勝利し、グランドスラム東京2連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ朝比奈沙羅選手（東海大）

「今回の大会では、世界だけでなく国内にも自分より上手の人がたくさんいることを実感しました。ここからは、大きな怪我や情けない負け方はできないので、覚悟と誇りを持って東京五輪まで突き進んでいきたいです」



【大会結果】

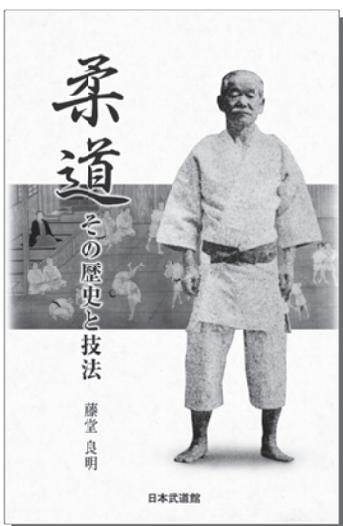
男子	優勝	2位	3位	日本選手
60 kg級	高藤直寿 (パーク 24)	ダシュダワ (モンゴル)	志々目徹 (了徳寺学園職) 永山竜樹 (東海大学)	宮之原誠也 (国士館大) = 1 回戦敗退
66 kg級	阿部一二三 (日本体育大)	丸山城志郎 (ミキハウス)	磯田範仁 (国士館大) アン パウル (韓国)	田川兼三 (筑波大) = 3 回戦敗退
73 kg級	立川新 (東海大)	マルゲリドン (カナダ)	橋本壮市 (パーク 24) アン ジョンスン (韓国)	野上廉太郎 (筑波大) = 5 位 大野将平 (旭化成) = 3 回戦敗退
81 kg級	オトゴンバルタル (モンゴル)	イ ソンホ (韓国)	ニヤムスレン (モンゴル) デ ウィット (オランダ)	佐々木健志 (筑波大) = 3 回戦敗退、小原孝哉 (パーク 24) = 3 回戦敗退 山本悠司 (天理大) = 3 回戦敗退、藤原崇太郎 (日本体育大) = 3 回戦敗退
90 kg級	長澤憲大 (パーク 24)	小林悠輔 (旭化成)	向翔一郎 (日本大)	釘丸太一 (センコー) = 1 回戦敗退
100 kg級	チョ グハム (韓国)	コレル (オランダ)	マルジアニ (ジョージア) サージェニクス (ハンガリー)	飯田健太郎 (国士館大) = 7 位、熊代佑輔 (ALSOK) = 3 回戦敗退
100 kg超級	小川雄勢 (明治大)	クルパーレク (チェコ)	ニキフオロフ (ベルギー) 影浦心 (東海大) モウラ (ブラジル)	西山大希 (新日鐵住金) = 3 回戦敗退、下和田翔平 (京葉ガス) = 3 回戦敗退 上川大樹 (京葉ガス) = 5 位 王子谷剛志 (旭化成) = 7 位
女子	優勝	2位	3位	日本選手
48 kg級	近藤亜美 (三井住友海上)	ムンフバト (モンゴル)	渡名喜風南 (帝京大) ジョン ボギョン (韓国)	遠藤宏美 (ALSOK) = 5 位 森崎由理江 (宮崎大学教員) = 2 回戦敗退
52 kg級	阿部詩 (夙川学院高)	立川莉奈 (福岡大)	志々目愛 (了徳寺学園職) ジャール (フランス)	角田夏実 (了徳寺学園職) = 7 位
57 kg級	芳田司 (コマツ)	山本杏 (パーク 24)	玉置桃 (三井住友海上) 宇高菜絵 (コマツ)	
63 kg級	田代未来 (コマツ)	鍋倉那美 (三井住友海上)	津金恵 (筑波大) トルステニャ (スロベニア)	土井雅子 (環太平洋大) = 5 位
70 kg級	大野陽子 (コマツ)	新井千鶴 (三井住友海上)	田中志歩 (環太平洋大) ベレス (プエルトリコ)	新添左季 (山梨学院大) = 7 位
78 kg級	濱田尚里 (自衛隊体育学校)	ステーションフィス (オランダ)	佐藤瑠香 (コマツ) チュメオ (フランス)	梅木真美 (ALSOK) = 5 位 和田梨乃子 (大成高) = 2 回戦敗退
78 kg超級	朝比奈沙羅 (東海大)	素根輝 (南筑高)	キム ミンジョン (韓国) アルテマン (ブラジル)	稲森奈見 (三井住友海上) = 5 位 井上あかり (環太平洋大) = 1 回戦敗退

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた^{*}武道としての柔道、を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p> <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>
---	--	--

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

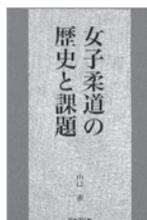


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)

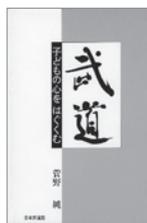


大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)

第61回全日本大学空手道選手権大会

■男子組手団体戦

京都産業大学が初の2連覇

帝京大学は男子形10連覇、女子組手・女子形8連覇



男子組手決勝中堅戦
京都産業大・中島啓太（右）が上段裏回し蹴りで優勝を大きく引き寄せる



男子組手優勝＝京都産業大学

第61回全日本大学空手道選手権大会（主催Ⅱ全日本学生空手道連盟）が昨年11月19日、日本武道館で開催された。大会はすべて団体戦で男子組手、女子組手、男子形、女子形の4部門で争われた。

男子組手は京都産業大学が近畿大学を破って創部史上初の2連覇を達成。女子組手は帝京大学が近畿大学に勝利して8連覇。形は帝京大学が男女ともに優勝し、それぞれ、10連覇、8連覇に記録を伸ばした。

◆組手

試合は男子が5人制、女子が3人制のトーナメント方式で、試合時間は2分とし、6ポイント差がついた時点で試合終了とした（1・2回戦は1分半、男子のみ準々決勝以降は3分、8ポイント差がついた時点で試合終了）。初戦を除き、団体戦の勝敗が決定した時点で競技終了とした。

▽男子組手

63校が出場。4強には、前回大会で4年ぶりの優勝を果たした京都産業大学、前回準優勝の雪辱を誓う近畿大学のほか、国士舘大学と帝京大

学が勝ち残った。

京都産業大と帝京大の対戦では、先鋒戦、次鋒戦ともに京都産業大が勝利。中堅戦は帝京大が勝って粘りを見せるも、副将戦で京都産業大・釜口が勝利して順当に決勝進出を決めた。一方、近畿大と国士舘大の対戦では、近畿大が先鋒戦から中堅戦まで1ポイントも失わずに勝利して8年連続で決勝に駒を進めた。

◇決勝

京都産業大	3-0	近畿大
先鋒	杉本一樹	6-0 安藤大騎
次鋒	吉村文太	3-0 西村 拳
中堅	中島啓太	5-2 大迫 睦
副将	釜口幸希	× 山城勇樹
大将	藤沢貴樹	× 中野大輝

京都産業大と近畿大による決勝の対戦は4年連続。京都産業大は、一昨年の優勝メンバーが4名残る強力な布陣で連覇を狙う。一方の近畿大は、ナショナルチームに所属し一昨年の全日本選手権で個人3位になった西村拳を軸にしたチームで優勝旗の奪還を狙った。

先鋒戦、京都産業大・杉本と近畿大・安藤が対戦。杉本は序盤から、しっかりと間合いを計り、的確な突き



男子組手決勝先鋒戦
京都産業大・杉本一樹(左)が上段突きで有効を奪う



男子組手決勝次鋒戦
京都産業大・吉村文太(右)が中段蹴りでリードを広げる

でポイントを重ねる。杉本は危なげない試合運びを見せ、6-0で勝利して京都産業大が先勝する。続く次鋒戦、京都産業大は吉村、近畿大はエースの西村が登場。慎重に攻める西村に対し、吉村は臆することなく攻め、上段突き、更には中段蹴りを決め、3-0とリードを奪う。点差が広がり焦る西村は、距離を取って捌く吉村を捉えられず、そのまま試合終了。京都産業大が大きな一勝をあげ一気に優勝に王手をかける。優勝のかかる中堅戦。京都産業大・中島と近畿大・大迫は、ともに機を窺い、牽制が続く。試合時間が半分を過ぎたところ、大迫が先に仕掛け、上

段突きで1点を先取。先制を許した中島だが、直後に中段突きで同点にすると、再び中段突きで飛び込み、下がりながら上段裏回し蹴りを繰り出すと、見事な一本。一気に3ポイントを奪い、中島が逆転に成功。この後は両者が突きで1ポイントずつ取って5-2で試合終了。京都産業大が3-0で創部史上初の2連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ京都産業大学・荒賀龍太郎監督

「京都産業大学は連覇をしたことがなかったたので、優勝できて本当に嬉しいですね。メンバーには、『お前たちは強いチームだから自信を持ってやっつけていこう』と声をかけて色々な練習をしました。最後は気持ちのぶつかり合いだったと思います。来年以降もこの連覇を続けていきたいです」

◎優勝Ⅱ京都産業大学・杉本一樹選手

「この日のためにみんなやってきたので夢が叶いました。主将になってからは、京都産業大学が未経験の、連覇をしなければならぬという重圧がありました。ですが、頼もしい同期と後輩のおかげでここまでやってこられました。最後なので悔いがないように、気持ちで負けないように試合をしました。後輩には3連覇を目指して頑張ってもらいたい」

▽女子組手

55校が出場。7連覇中と圧倒的な強さを誇る帝京大は、先鋒から大将まで全日本強化選手を揃え、徳山大を2-0、明海大を2-0、九州産

業大を2-0で降して勝ち上がる。準決勝の駒澤大戦では2-1と一敗を喫するも、貫禄の決勝進出。反対のブロックでは、14年ぶりの優勝を目指す近畿大が、東洋大を3-0、

日本体育大を1-0、大正大を2-0と二敗もせずに勝ち上がり、準決勝で対戦した京都産業大をも2-0と安定した戦いぶりで撃破。2年連続で決勝の舞台に進んだ。

◇決勝

帝京大 2-1 近畿大
先鋒 宮原美穂 2-0 廣瀬朱夏
中堅 鈴木眞弥 1-4 齋藤綾夏
大将 森口彩美 3-0 篠原 渚



女子組手決勝先鋒戦=帝京大・宮原美穂（右）が上段逆突きで先取



女子組手決勝大将戦
帝京大・森口彩美（右）が上段突きを決める



女子組手決勝中堅戦
近畿大・齋藤綾夏（左）の上段裏回し蹴り一本

先鋒戦、帝京大・宮原対近畿大・廣瀬は、終盤に上段逆突き2本を決めた宮原が勝利。続く中堅戦は近畿大・齋藤が帝京大・鈴木に突きで先制されるも、上段裏回し蹴りで一気に逆転。さらに、上段突きでリードを広げて、4-1で近畿大が勝利。意地を見せた近畿大が星を五分に戻す。最後の大将戦では、帝京大・森口が試合巧者ぶりを発揮。間合いをはかって突きで得点を重ねて3-0で勝利。地力を見せつけた帝京大が連覇の記録を8に伸ばした。

◎優勝Ⅱ帝京大学・宮原美穂選手
「優勝できて本当に良かったです。先輩方に恩返ししたくて、気持ちも強くなって戦いました。気負いすぎた攻めが雑になった部分もありましたが、勝って後ろに繋がられて良かったです。来年自分たちの代になったら、全日本大学選手権で男女の全4種目をとれるように明日から稽古していきたいです」

◆形

形競技は、予選と決勝トーナメント戦からなり、予選上位4チームが決勝トーナメントに進出。開始の礼から分解演武終了の礼までの6分間で演武を行い、5名の審判による旗判定で勝敗を決定した。

▽男子形

決勝トーナメントに進出したのは、帝京大、同志社大、国士舘大、



男子形優勝＝帝京大（ウンス）、左から本龍二、本一将、藤田開土

山梨学院大の4校。準決勝第1試合、帝京大対国士舘大の対戦では、

帝京大がソーチン、国士舘大がウンスを演武し、帝京大が5―0で決勝進出を決めた。準決勝第2試合では、同志社大、山梨学院大の両校がスーパーリンペイを選択。4―1で同志社大が決勝に残った。

決勝は帝京大対同志社大の対決。帝京大が得意のウンス、同志社大がアーナンを演武。帝京大に5本旗が



女子形優勝＝帝京大（ウンス・分解）、左から伊藤いぶき、平紗枝、武儀山舞

揃い、完勝で連覇の記録を二桁の10に更新した。

◎優勝Ⅱ帝京大学・本一将選手

「いつも失敗しないところで失敗たので、負けてしまうのではと、緊張していました。勝ててホッとしています。決勝も5―0で勝てたことは、練習の成果が出て、見ている人に伝わったのではないかと思って嬉しくなりました。今回が学生として最後の大会で、来年は社会人になります。今後はオリンピックも視野に入れて頑張っていきたいです」

▽女子形

決勝トーナメント進出は、帝京大、駒澤大、同志社大、国士舘大の4校。準決勝の帝京大対国士舘大の対戦では、帝京大がゴジュウシホシヨウ、国士舘大がクルンファを演武。帝京大が5―0で快勝した。続いて、駒澤大がゴジュウシホシヨウ、同志社大がスーパーリンペイで対戦。4―1で駒澤大がこの種目で初めて決勝進出を果たした。決勝の帝京大対駒澤大の対決では、帝京大がウンス、駒澤大がガンカクを演武。帝京大が5―0で優勝を決め、8連覇を達成した。

【大会結果】

《男子組手》

▽優勝Ⅱ京都産業大学

▽準優勝Ⅱ近畿大学

▽3位Ⅱ帝京大学、国士舘大学

《女子組手》

▽優勝Ⅱ帝京大学

▽準優勝Ⅱ近畿大学

▽3位Ⅱ駒澤大学、京都産業大学

《男子形》

▽優勝Ⅱ帝京大学

▽準優勝Ⅱ同志社大学

▽3位Ⅱ国士舘大学、山梨学院大学

《女子形》

▽優勝Ⅱ帝京大学

▽準優勝Ⅱ駒澤大学

▽3位Ⅱ国士舘大学、同志社大学



日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光日本武道館会長



(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手からての精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著

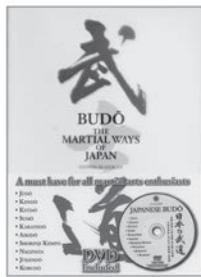


人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もがができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDO: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

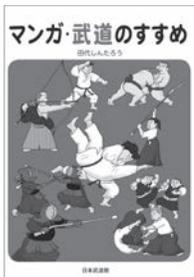


武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

田谷将俊 著



月刊「武道」記者 田谷将俊 著
各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



団体・最優秀＝日本体育大学

少林寺拳法創始 70 周年記念

第 51 回少林寺拳法全日本学生大会

すすむ
『進』——気迫を込めて技を披露



女子団体・最優秀＝同志社大学

少林寺拳法創始70周年記念第51回少林寺拳法全日本学生大会は昨年11月26日、日本武道館で開催された。大会には、全国144校延べ1666名の学生拳士が参加し、演武や立会評価法で技を競った。

大会は午前9時に開会。今年は、学生拳士が少林寺拳法を盛り上げて発信し、さらに前進すすむさせていきたいという思いから「進」がテーマに掲げられた。鎮魂行の後、午後からの本戦出場をかけた、演武全19種目の予選が行われた。

開会式は午後1時半から行われた。国歌斉唱に続き、松平頼武全日本学生少林寺拳法連盟会長が挨拶を述べた。次に、石原伸晃少林寺拳法振興議員連盟幹事長と川島一浩少林寺拳法連盟会長が挨拶し、選手を激励した。

本選では、予選を通過した拳士たちが演武し、拳士たちの気迫と声援が響き渡り、会場は熱気に包まれた。演武本選終了後は、立会評価法が行われ、拳士たちは日頃の稽古の成果を発揮しようと、迫力ある攻防を繰り広げた。



女子三段以上の部=笹川(右)・山本組(関西外国語大学)



男子三段以上の部=村上(下)・水永組(早稲田大学)

◇男子三段以上の部

◎最優秀賞Ⅱ村上健拳士・水永章拳士
(早稲田大学)

村上「練習で思うようにいかなかったことがあったのですが、最後は自分たちがやってきたことを信じて、競技を1日楽しむことを忘れずに臨みました。自分たちの実力を出せたという部分で、楽しむことができたと思います」

水永「2年生で、まだ1年しか先輩方と稽古できていません。実力はなのですが、先輩を信じてやってきました。先輩のおかげでここまで引

つ張ってきてもらって、可能性を広げてもらって感謝しています。来年は後輩を引っ張っていかねければいけない立場なので、自分の結果も残しつつ、部全員が活躍していけるように頑張ります」

つ張ってきてもらって、可能性を広げてもらって感謝しています。来年は後輩を引っ張っていかねければいけない立場なので、自分の結果も残しつつ、部全員が活躍していけるように頑張ります」

◇女子三段以上の部

◎最優秀賞Ⅱ笹川理菜拳士・山本瀬菜拳士(関西外国語大学)

笹川「いつもは同じリズムでやっていたんですけど、一つ一つ区切ることを意識しました。それができたので、最優秀賞につながったんだと思

います。私も山本も1年生で最優秀を獲得することができてびっくりしました。今回で山本と臨む最後の大会だったので、1人になった時でも、2人でやってきたことを活かせるように頑張っていきたいです」

山本「一つ一つ区切るということ、2人で意識しようと思ったので、それを心掛けてきました。気合はしっかり出そうという部分も意識しました。今回は、笹川と組める最後の機会だったので、最優秀賞は本当に嬉しかったです。来年は後輩もできるので今回得たことをしっかり伝えていきたいです」

【大会結果】 ※最優秀演武のみ

▽男子三段以上Ⅱ村上健・水永章(早稲田大)

▽女子三段以上Ⅱ笹川理菜・山本瀬菜(関西外国語大)

▽男女二段以上Ⅱ荒井大輝・大野水彩(学習院大)

▽男子二段Ⅱ石川広都・新聞那粹(日本体育大)

▽女子二段Ⅱ梶花織・橋本美咲(同志社大)

▽男子初段Ⅱ梶山和人・坂田英作(明治大)

▽女子初段Ⅱ上野絵美・横山可奈子(明治大)

▽男女初段Ⅱ喜田航貴・山本咲菜(明治学院大)

▽男子茶帯Ⅱ遠藤創・松村泰成(東京農工大)

▽女子茶帯Ⅱ鈴木麻衣・早乙女迪子(学習院大)

▽男女茶帯Ⅱ岡崎雅臣・藤本夏未(中央大)

▽男子白帯緑帯Ⅱ松本雅彦・茂原教蔵(佐賀大)

▽女子白帯緑帯Ⅱ佐久間実咲・藤原夏(慶應義塾理工学部)

▽男女白帯緑帯Ⅱ岡田大聖・荻野友里(関西学院大)

▽三人掛けⅡ尾形桂吾・小林和真・源川拓美(早稲田大)

▽単独有段Ⅱ渋谷錬(早稲田大)

▽単独段外Ⅱ及川大輝(東北学院大)

▽団体Ⅱ日本体育大学

▽女子団体Ⅱ同志社大学

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『**魄**』は生きるための生命力——
『**魂**』は人間を善に導く原動力——

魂魄(こころ)が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができ、
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

—魂魄(こころ)を育てる—

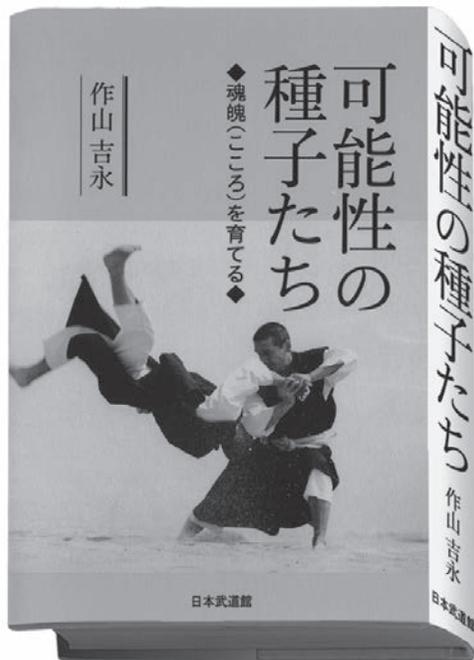
金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長

作山吉永 著

(四六判・上製・338頁)

主な目次

- 第1章 少林寺拳法 / 第2章 直心是道場 / 第3章 師事 /
- 第4章 マイ・アメリカ / 第5章 可能性の種子、芽吹く /
- 第6章 嵩山少林寺 / 第7章 魂魄(こころ)を育てる /
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！





授業の様子（すね打ちの練習）

●日本武道協議会

『中学校武道必修化指導書』でなぎなた授業

東京都調布市・私立晃華学園中学校高等学校で中学校武道授業指導法研究事業

平成29年度中学校武道授業（なぎなた）指導法研究事業（主催：日本武道館・全日本なぎなた連盟・日本武道協議会）が昨年10月28日、東京都調布市の私立晃華学園中学校高等学校で行われた。

まず、研究者5名となぎなたを専門としない都内の保健体育科教員9名及び教員志望の大学生1名が、日本武道協議会発行の『中学校武道必修化指導書』を用いたなぎなたの授業を視察し、続いて実技研修（なぎなた体験）を行った。その後、本指導書の内容の評価、指導法の課題などが検討協議された。

◇ 9時40分より晃華学園中学校の1階会議室にて研究事業が開始された。開講式では今浦千信いまうらのちのぶ全日本なぎなた連盟常務理事より、「本研究事業は、なぎなたの授業をより良いものにすることを目的としています。今日は晃華学園中学校での授業を視察することにより、教育の中でなぎなたをどう活かしていくかを考えたと思います」と挨拶があった。

続いて、吉野喜信よしののぶ日本武道館振興部長が、「本研究事業は本年度で8

年目を迎えました。今年3月末に次期学習指導要領の告示があり、中学校武道必修化はさらに10年継続実施されることが決定いたしました。日本武道館としても将来を見据えた指導法研究事業にしていかなければならないと考えております。今回は『中学校武道必修化指導書』を活用した初の授業実践による指導法研究です。指導内容、指導法をしっかりと検討いただき、中身の濃い研究事業となることを期待します」と述べた。

■授業視察（1年生・3／10時間）

開講式後の授業視察では、研究協力者の増田倫子ますだみちこ教諭が授業を担当した。増田教諭はなぎなた未経験者で、『中学校武道必修化指導書』に基づいて授業を実施した。

10時45分、整列後、まず本時のめあてである体さばき（送り足・歩み足・継ぎ足）について説明した後、DVDで実際の動きを確認した。増田教諭は、「体幹を使って、体と一緒になるべく低い姿勢で行うこと」とポイントを伝えた。その後、全員でなぎなたを用いないエアなぎなた

で、八相の構え・体さばき・正面打ちを行った。準備体操を行った後、運動量を確保するためのランニング（体育館2周）を行った。

運動靴を脱いで裸足になると、全員で礼法（着座・座礼）を行い、黙想で心を落ち着かせた。

全員でなぎなたを持ち、体育館いっばいに間隔をとって広がり、実技開始。教諭の号令に合わせて、送り足、歩み足、継ぎ足を行い、生徒は体育館のラインを目印にまっすぐ前に移動した。その後、生徒は二人一組となり、中段の構えからの面、八相の構えからの面・すねを号令に合わせてながら打つ練習。増田教諭から「間違ってもいいから色々試して習得してください」と声掛けすると、生徒は「メンツッ!」「スネツッ!」と大きな声を出して打ち込んだ。「歩み足の時はお互いの呼吸を感じながら目線を合わせて」の声が掛かると、お互いに息を合わせて間合を取る姿が見られた。増田教諭は授業の要所で生徒1名を指名して一組となり、動きを示範するなど、常に見て分かりやすい説明を心がけていた。最後は、礼法を行い、「今日は大

きな声が出ていたいへん良くできました。仲間や道具に感謝する気持ちを大事にしてください」と締めくくり、授業は終了した。

◎増田倫子教諭(晃華学園中学校高等学校)



「なぎなたに興味がある子が多く、意欲的に取り組み、すぐに実践ができました。私自身、初心者で技の正確性について不安はありますが、自信を持ってやるようになっています。なぎなたは特有の発声があるので、掛け声については特に気を付けています。『中学校武道必修化指導書』を活用し、(研究者の)小倉尚美先生にアドバイスをいただいで勉強しています」

○生徒の声

「最初(なぎなたを)持った時は、結構長くて重かったのですが、扱いが変でした。でも、授業を受けていくうちに扱い方にも慣れ、段々とできようになるようになってきて楽しくなってきました」

■実技研修(なぎなた体験)

まず、研究事業参加者全員でなぎなたを持って円になり、体さばき(送り足・歩み足・継ぎ足・開き足)を行った。続いて、二人一組となり、面打ち、すね打ちを練習。最後は別でレベルに応じた実技を行い、45分間の実技研修が終了した。

◎両角圭祐教諭(立教新座中学校・高等学校)

「女子校への転勤に備え、なぎなたの勉強をしたくて参加しました。初めてのなぎなた体験はとても楽しくできました。難しかったのは持ち替えます。間合があるため怪我が低くが低いことが良いと思います」

■意見交換会・検討協議

場所を会議室に戻し、意見交換会と検討協議を行った。なぎなたを授業で行う価値については、「球技は相手よりボールの方を覗てしまいが、なぎなたは相手を見て、相手の呼吸を感じながら動くことができる」、「大きな声を出せない中学生が増えているので、気迫を出したり、大きな声で相手に伝える良い練習になると思う」、「柔道では相手に遠慮してしまうことがあるが、なぎなたでは思い切つて力強く打てる」、「長物を扱うことで間合を知ることができる。相手との距離感を学ぶことができる」などの意見が出た。一方、授業を実施する上での課題としては、「防具購入・外部指導者への手当などの予算がない」、「高校に進学した際になぎなたを実施したいという子の受け皿がない」との声が上がった。



研究事業の最後に、松井亮子研究者より講評を、吉野喜信日本武道館振興部長より主催者挨拶がそれぞれ述べられ、全日程が終了した。



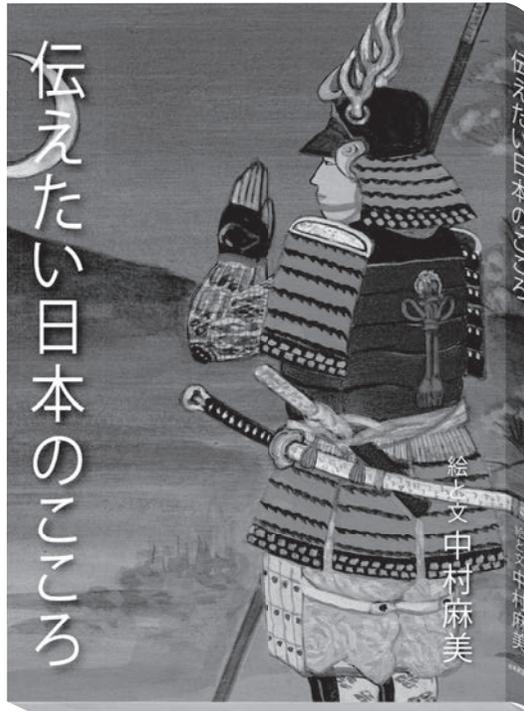
円になって足さばきの練習

好評発売中

絵と文中村麻美 (なかむらまみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のいづろ



中村麻美 (なかむらまみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼続お船ミュージアム所蔵)、『斎王』(三重県立高宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のいづろ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひよどり越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと笛
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹―母への葉
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子齋王―別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 川中島の大蛇
- 十五 中島の戦い―謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫―夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎―米百俵の精神
- 二十二 島津義弘―関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后―千人のからたを洗う
- 二十四 城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇と東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 野中兼山―海に捨てたはまぐり
- 三十二 鉢の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春―誉れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村―大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇―祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』

編集・発行 公益財団法人日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 まどどうぞ!

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円＋税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

序章	探求の旅をはじめに
第二章	刀剣の歴史
第二章	刀剣思想の源流
第二章	古代中国の宝剣伝説 太阿の剣
第二章	干将莫耶の宝剣伝説
第二章	高祖の斬蛇剣
第二章	道教と剣
第二章	古代朝鮮の刀剣思想
第二章	神話的世界の形成と剣神の誕生
第二章	天より降る剣 節霊剣
第二章	天地を繋ぐ剣 草薙剣
第三章	信仰のなかの刀剣思想
第三章	祀る剣 祀られる剣
第三章	辟邪の呪剣
第三章	うけいの呪術と剣
第四章	中世における刀剣思想
第四章	修験道と剣
第四章	三種の神器の不思議
第四章	『平家物語』にみる三種の神器
第四章	『太平記』が語る草薙剣像
第五章	近世剣術における刀剣思想
第五章	剣術伝書に語られる日本神話
第五章	新當流にみる霊剣の技術
第五章	示現流にみる心の利剣
第六章	近現代における刀剣思想
第六章	近世剣術における刀剣思想の展開
第六章	古代と現代を繋ぐ刀剣
第六章	近代以降の刀剣思想
第六章	古代と現代を繋ぐ刀剣
第六章	鹿島神宮日本刀奉納鍛錬
終章	稽古照今

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

北海道千歳市立中学校8校

外部指導者と連携した柔道授業



昨年の11月21日、北海道の千歳市開基記念総合武道館において、千歳市立北斗中学校の柔道授業を取材した。千歳市立中学校8校では、平成24年度より千歳柔道連盟の外部指導者と綿密に連携し、柔道授業を実施している。

本年度は、千歳市立中学校8校に外部指導者として5名が派遣され、5名の合計で延べ47日・59回、3980人の生徒に対して授業を行うという。取材をもとに、千歳市立中学校における外部指導者と連携した授業方法を紹介したい。

■連携した授業形態の経緯

平成22年度、中学校武道必修化まで2年に迫ったこの年に千歳市教育委員会では、市内の中学校においてどの種目をどのように実施するのか話し合いがなされていた。それま

で、市内の中学校では武道授業を実施していなかったため、授業方法などが確立されていなく、各中学校では武道場も整備されていなかった。そのような状況のなかで、各学校において指導レベルの差がない授業を目指し、市内8校において統一した種目を実施することが決定した。

種目の選定では、学習指導要領に記載のある「柔道」「剣道」「相撲」が候補にあり、その中で、「剣道」は剣道具管理の衛生面で問題があること、「相撲」は指導者がいないことが指摘され、「柔道」を実施することとなった。

また、場所の選定では、武道場のない学校での実施は適していないとされ、授業は千歳駅から車で10分の場所に位置する千歳市開基記念総合武道館で学校ごと実施することが決定した（一部の学校を除く）。総合武道館は、平成5年に完成し、千歳市体育協会が管理運営している。1575㎡の広さとなるアリーナ（収容人数1954人）と、試合場が2面とれる柔道場に加えて、剣道場、弓道場、トレーニング室を備えている。



千歳市立北斗中学校・第2学年の柔道授業

そして、千歳市教育委員会より千歳柔道連盟に対して外部指導者の派遣を要請した。これは、小林義和前教育長と千歳柔道連盟の村井政孝副会長兼理事長がともに市内中学校の元校長で繋がりがあがることの一つの起因となっている。また、千歳柔道連盟が組織としてしっかりと機能しており、元校長である村井氏が理事長を務める連盟の指導体制に教育委員会側の不安がなかったことも一因となる。千歳柔道連盟の平山裕会長は、設備が整っている千歳市総合武道館であれば、安全に指導できると考えてこれを受諾した。こうして千歳市教育委員会では、千歳柔道連盟の指導者を北海道の講師派遣事業の外部指導者として、依頼することがまとまった。

以上のことが複合的に判断され、平成22年度から23年度にかけて決定していった。

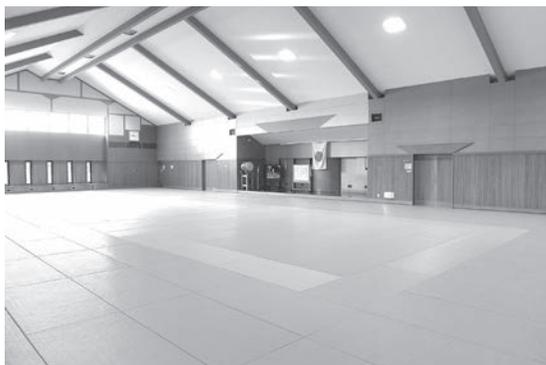
■指導資料作成と保健体育科 教諭の講習会

千歳市教育振興会保健体育部会では、前述の村井氏が中心となり、安全に配慮した『中学校保健体育科に

おける柔道学習（指導資料）』を作成した。ここには、柔道学習の意義からはじまり、施設・設備・用具、指導計画（礼法、受け身、立ち技、固め技、試合、まとめ）について写真付きで細かに説明されている。この指導資料が現在でも市内中学校での柔道授業の指針となっている。

加えて、平山会長は、徐々に教員が中心の授業を行ってほしいと考へ、教育委員会に千歳市教育振興会保健体育部会での実技講習会を要請した。これは、平成24年度の柔道授業の実施前に総合武道館において1度開催されている。今回2度目の実技講習会を昨年9月に行っており、講習会では、柔道連盟の高段者のもとに市内中学校の保健体育科教諭が集まり、受け身、立ち技、固め技のポイントが2〜3時間、指導された。この講習会の目的は、教員が主体となる授業の意識付けとともに、授業のスタートからつまづかないようにすること、また、各学校で授業方法を統一することだという。

本年、受講した女性教諭からは「講習会の雰囲気もよく、授業の進め方もよく理解できました」との安堵の



公式戦2面がとれる柔道場 (450㎡)



千歳市開基記念総合武道館外観



村井氏による前回り受け身の指導



柔道着で来館する生徒たち

声があがったそう。柔道を専門としない教員にとつて欠かせない講習会となったことがうかがわれる。

■授業の実際

(1)年度ごとの授業スケジュール

年度当初、市教委より柔道連盟に外部指導者の派遣依頼を行う。並行して各学校から年度のスケジュールを提出してもらう。柔道連盟と武道館の予定も加味しながら9月までに年度の授業スケジュールを決定している。

ちなみに武道館を利用して授業を行っている学校は全部で5校ある。平成24年に新設された勇舞^{ゆうまい}中学校は校内に武道場も備えているため、学校で実施。他に小規模校となる東千歳中学校、駒里中学校も勇舞中学校の武道場で実施している。各学校では、年間でおよそ10時間の授業を実施している。

(2)指導計画について

各学校では、村井氏の指導資料と当該学校の前年度の指導計画を参考にして、当年度の各学校に応じた指

導計画案を作成。柔道連盟と擦り合わせを行いながら、指導計画を完成させている。

(3)教員の武道授業研修と外部指導者の講習会について

武道授業研修として、教員は、前述の千歳市教育振興会保健体育部会での講習会に加えて、北海道の武道指導力向上における武道講習会を受講。外部指導者に対する講習会については、元学校長である村井氏が主体となつて指導体制を構築しているため、特に行っていないという。

(4)北斗中学校における武道授業

それでは、北斗中学校での柔道授業を見てみよう。
北斗中学校の生徒数はおよそ350名、各学年、3〜4組ある。柔道授業は第1学年・第2学年において実施。第3学年は受験に備えて武道授業は行っていない。1コマ目と2コマ目の授業は学校の体育館でマットを敷いて、教員のみで行っている。帯の結び方、受け身の取り方などを指導しているという。武道館での授業は合計2回。1回につき計4コマ



授業は穂積教諭が中心となって行われた



金山教諭はT2として指導にあたる



阿部氏による補強運動（腰切り）の模範

（3時間・10分の休憩を含む）の授業を行う。柔道授業として合計で10コマの授業を行うことになる。

11月21日、午前9時前に教育委員会が手配したバスにて、北斗中学校の第2学年1・2組の男女生徒が千歳市総合武道館に到着した。このように、各学校から武道館までの送迎は、教育委員会が用意したバスで行っているという。第2学年は3組までとなるが、武道館での1回目の授業については人数の都合上、1・2組と3組に分けて授業を行っている。

生徒たちはあらかじめ柔道着に着替えている状態で到着。これは、時間短縮と手荷物の混乱を避けるための工夫である。柔道着は各家庭で用意をお願いしている。空手道が盛んな北広島市が近いためか、青帯や黄帯を締めた空手着の生徒も確認できた。

授業者は、昨年新任として北斗中学校に赴任した穂積泰央教諭（専門・陸上）。昨年も柔道授業を受け持ったという。普段は女子の担当であるが、柔道は男女共習で実施しているため、全体を指揮している。教員としてもう一名、金山大輝教諭（専

門・バスケットボール）がT2として加わっていた。外部指導者は平山氏、村井氏に加えて阿部充孝八段の3名。平山氏も七段であり、5名全ての外部指導者はいずれも高段者である。普段の授業では、学校の規模にもよるが概ね2名の外部指導者が受け持つという。「なるべく少ない人数で行うようにしています」と答える平山氏。教員主体の授業となるように指導者派遣は最小限にとどめるようにしているとのことだ。

北斗中学校の指導計画は、穂積泰央教諭が中心となり、前年の指導計画書をベースに作成している。時系列で学習内容が記されており、午前8時30分の朝の会終了後から、数分刻みで事細かに学習内容が明記されている。学習内容として、体育館への移動・着替え、バスの乗車なども含まれており、これを見るだけで生徒の動向も一目瞭然となっている。また、その学習内容を指導するのが誰（T1、T2、外部指導者）なのか、役割分担がズラリと記載されている。T1の指導箇所が大部分を占めているようだ。

午前9時より、柔道場において全



手押し相撲のような後ろ受け身の練習



投げ技の練習。授業は終始にこやかに行われた



固め技の練習

員で黙想を行い、授業は開始された。補強運動の腰切りでは、穂積教諭指導のもと、生徒たちは交互に左右の足を内側に折ってストレッチを行うが、なかなか上手くいかない。そこで阿部氏が手本を見せると生徒たちからはどよめきが起こり、より授業に積極的に参加していた。

続いて平山氏による座礼の指導では、「必ず爪先を立ててから座るように」と細かく注意点が加えられる。穂積教諭による後ろ受け身の指導では、生徒たちは2人組になり、互いに向き合い、蹲踞ぞんぎょの姿勢をとってから、手押し相撲のように、互いの手を押し合って楽しくそうに受け身をとっていた。ゲーム的な要素も含んだこの学習内容は、連盟との授業案協議のときに生徒の動機付けのため採用したという。前受け身の指導では平山氏より「頭をしつかり守るように」と厳しく指導がなされていた。その後は10分の休憩を挟み、固め技、投げ技の指導が阿部氏を中心になされていた。次回の武道館での授業では、1組から3組の全員が集まり、固め技の簡易試合を行い、評価がなされるそうだ。

「授業ではけが人も出ていませんし、このような取組はここ千歳市だけです。多い年は指導者全員で延べ5000人の生徒の授業をみてましたよ」と誇らしげに笑みを浮かべる平山氏。外部指導者と連携した授業として成功例となる千歳市での柔道授業であるが、アキレス腱となる今後の課題もあるという。

「平成24年度からはじまって、当初は一期（4年間）までということでした。実施しました。一期が終わったところで教育委員会よりもう一期やってほしいとの要望があり、合計8年は頑張ろうかと思っています。千歳市



平山裕千歳柔道連盟会長

■今後の課題

第一に安全で、そして楽しく、教員主体であり、かつ指導者から武道の真髄に触れることのできる授業が一貫してなされていた。

では次の世代の指導者がおらず、指導者の高齢化が進んでいます。続けてやりたいのですが指導者がおりません。ですので二期までなのです。最初は、教員の方も指導法がわからず、どうしても指導者が中心の授業でした。しかし、このところ、外部指導者と連携しつつも教員が中心となった授業ができてくるように思えます。あと2年でなんとか教員のみで今の授業と同じレベルの指導をしてほしいと思っています」

■コメント

▽穂積泰央 北斗中学校教諭



「安全第一の授業であるなど感じます。しかし、楽しい授業でもあるので、授業前と後で生徒は『やだなー』から『楽しかった』に変わっています。そのような声を聞くと、大きな喜びとなりますね。」

授業回数が少ないので生徒たちは忘れてしまう部分もあります。逆に言えば短時間で四コマの授業を行うので深く掘り下げることもできません。長い授業時間ですので集中力が途切れてしまう生徒もいます。全体を見回してそのような生徒がいたら声をかけるようにしています」

▽高橋裕輔 千歳市教育委員会 教育部 学校教育課 学校教育係 係長



「市内中学校では、柔道経験のない教員がいるなかで、柔道連盟に協力してもらっているのはありがたいことです。これは、複数の目が行き渡ることになりますので、より安全な授業となっています。一方、指導者の高齢化が進み、授業に対応することが困難になりつつあります。教育委員会として、連盟の支援を最小限にとどめ、教員主体の授業となるような体制を構築していきたいです」

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体 1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎(柔道)、高野佐三郎(剣道)、阿波研造(弓道)、
双葉山(相撲)、船越義珍(空手道)、植芝盛平(合気道)、宗道臣(少林寺拳法)、
園部秀雄と三田村千代(なぎなた)、鶴沢尚信(銃剣道)

マンガ・武道の偉人たち



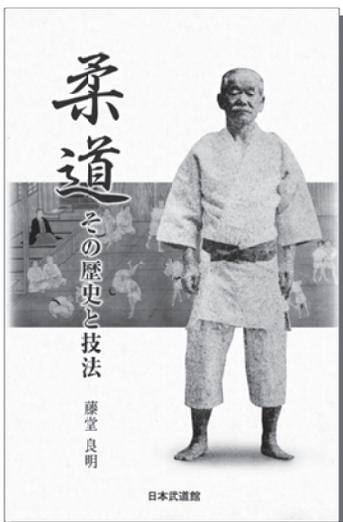
ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p> <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p> <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>
--	--	--

<p>編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp</p>	<p>お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ!</p>	<p>TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158</p>
--	--	---

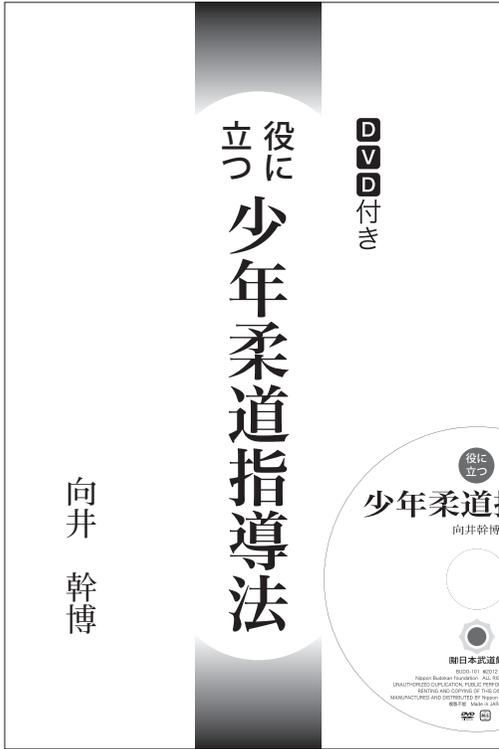
好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著



少年柔道指導法

収録時間170分を超える
解説DVD付属！



A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

第1部 解説編	第9章 少年柔道の未来のために
第一章 少年柔道は柔道指導の原点	第二章 実技編
第二章 基本動作の指導	第一章 礼法の指導
第三章 技の指導	第二章 受け身の指導
第四章 教育の中の柔道	第三章 基本動作の指導
第五章 指導の工夫	第四章 トレーニング法の指導
第六章 少年規定の変遷と問題点	第五章 柔道の練習法
第七章 柔道の安全指導	第六章 投技の指導
第八章 東日本大震災への講道館の対応	第七章 固技の指導

編集・発行 日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

岐阜県剣道連盟・岐阜県本巣市教育委員会 主催

「武道（剣道）の授業における授業協力者との連携による授業づくり研究会」



3年生女子の授業（全員で示範を見学する）

岐阜県本巣市^{もすし}において、「武道（剣道）の授業における授業協力者との連携による授業づくり研究会」（主催Ⅱ岐阜県剣道連盟・本巣市教育委員会）が昨年11月28日、71名が参加して本巣市真正中学校体育館、真正体育センターで開催された。

◆「授業づくり研究会」について

岐阜県剣道連盟では、平成24年度から始まった中学校武道必修化に対応して、学校の剣道授業に派遣する指導者の養成事業である「授業協力者講習会」を平成25年度より年に1回開催している。この講習会は、教

員がどのような意図で授業を行うか、学校の授業をどのように進め、かを授業協力者が学ぶことで、中学校での剣道授業を想定した効果的な授業運営の補助となる指導法を学ぶ

研究会である。

第1回から第3回までは座学を中心として、模擬授業も交えた研修会を行ってきた。

そして第4回からは学校現場で授業を行う体育科教員も参加。体育科教員は、授業協力者から直接専門的な技術を学んで指導力を高めたり、実際に子どもを教える立場からの要望や質問をあげるなど、現場の授業者と授業協力者の活発な交流が行われる、より実践的な内容を学べる講習会として変化していった。

そして、第5回を迎えるにあたり、前回から加わった体育科教員の参加者を更に募り、規模を拡大して実施することとなった。主催には新たに岐阜県本巣市教育委員会が入り、広く岐阜県内の中学校の体育科教員に本事業への参加が呼びかけられ、30名の体育科教員と41名の授業



打突部位について説明する大井教諭



構えについて指導する授業協力者



授業は和気藹々とした雰囲気で行われた

協力者の計71名が参加。講習会の名称も「武道（剣道）の授業における授業協力者との連携による授業づくり研究会」に決まり、実施に至った。

◆授業見学

当日の午前中は、参加者全員で真正中学校の2年生女子、3年生女子、1年生男子の実際の剣道授業を3コマ連続で見学。それぞれの授業を担当するのは、真正中学校の体育科教員であり、本事業の参加者でもある宇佐見成司教諭、早川久美子教諭、大井崇教諭の3名。全員、剣道が専門ではない教員である。

学年で学習内容に差があるものの、3学年とも剣道具を装着してから面、胴、小手を打つ練習を行う。いずれの授業でも最初に授業協力者が示範として、生徒の前で基本打ちを披露。生徒たちは、日頃目にするのではない迫力ある打ち込みに感嘆の表情を浮かべて、真剣な眼差しを送る。示範を全員で見た後は、授業担当者である体育科教員が練習に移る前にどんな練習をするか、何に気を付けるべきか、どこが評価のポイント

ントかを生徒に解説。大きな声が出ていたか、正しい打突部位を打っていたか、姿勢は良かったか、いわゆる気剣体一致の重要性などを生徒に確認する。宇佐見教諭は「生徒に課題を提示して、評価のポイントを説明することで生徒同士でも評価できる目を養えるように努めていきます」と、そのねらいについて語る。

生徒の評価法について、早川教諭、大井教諭に話を聞くと、生徒の動きをビデオ撮影して確認したり、毎回課題を出して毎時間評価をつけて、細かくチェックするなど工夫をしているそうで、専門外の種目を評価する難しさもあるようだ。

授業は順調に進み、3名とも剣道が専門ではないとは思えない自信に満ちた様子で、しつかり全体をコントロールして授業を行う。授業協力者は適宜、生徒に優しく技術指導を行い、生徒たちも楽しそうに剣道に取り組んでおり、とても良い雰囲気です。授業が行われていた。

なお、授業づくり研究会参加者に予め配布された学習指導案には、単元目標や指導する上での注意点や授業協力者が何をどこまで指導するか

が細かく書き込まれており、学校側が事前に綿密に計画を立て、剣道連盟とも協調して学習計画を立てていることが窺えた。

◆授業研究会、実技研修

昼食を挟んで会場を移動。真正体育センターで授業研究会となった。

授業研究会は、午前中に授業を行った宇佐見教諭、早川教諭、大井教諭から授業の感想、反省が述べられ、それに対して授業見学者が質問する形でスタート。「授業の中で試合を行うか、審判についてはどうするか」「生徒に正しく竹刀を振らせるために、どんな工夫をしているか」などの質問があった。

その後は、授業協力者から、授業見学の感想や、具体的な技術に関するアドバイス、剣道具の取り扱いや礼法を指導する際に気をつけなければいけないことが伝達された。

授業研究会に続いて授業協力者の福富保博講師の指導のもと、全体での実技研修となった。最初は、授業で実践できる指導法を紹介。2人1組になって、手ぬぐい切りで打突部

位を、新聞紙切りで刃筋を学び、竹刀を持たない状態で面打ちと残心の練習を行った。その後も、左座右起などの礼法、剣道具を着用しての互格稽古など、約70分の間に様々な練習を行い、あつという間に実技研修の時間が過ぎていった。

実技研修の間も、「竹刀を杖として使う生徒もいるので、注意してください」「生徒が竹刀を跨がないようにさせてください」など、細かい注意事項も指導されていた。最後に福富講師が講評を述べて授業づくり研究会は全ての日程を終了した。

◆主催者インタビュー



川治秀輝
本巢市教育長

「本巢市の中学校体育科教員は、剣道の専門家が1名しかおらず、多くの体育科教員が剣道の指導に不安を

もっています。この状況を改善するために、本研究会で体育科教員の指導力の向上を図りました。剣道の授

業は生徒たちが本物を体験することで剣道の楽しさ、特に上達する楽しさを実感し、日本古来の作法や礼法を深く学ぶことで興味・関心を高めてもらおうことが目的です。今後は授業づくり研究会を広く県内で開催していくことを通して、剣道の授業の充実と、体育科教員の授業づくりの手助けをしていきたいです」



松葉忠文
岐阜県剣道連盟副会長

「昨年から授業協力者と体育科教員の合同授業を実施しています。現場から座学だけでは出席者が少ないので合同授業で参加人数を増やしたいと要望がありました。現在、岐阜県内での剣道選択校の割合は86%くらいですが、協力者の採用が12校くらいで少ないです。もっと積極的に協力者を活用する学校を増やしたいので、県の教育委員会や教育事務所に働きかけを行っています。先生一人



実技研修会の様子

だけで生徒全員を見るのは大変です
ので、授業協力者を活用して素晴らしい授業をして欲しいです」

◆参加者の声

◇宇佐見成司教諭

「今後に繋がる内容でした。大変でしたが勉強になったし、自分の技能レベルも上がったと思います。胴打ちを教えるのが個人的に難しかったので、そのポイントを教えてもらえて良かったです。とても勉強になるので、もっと幅広くこの授業づくり研究会が実施されてほしいです」

◇早川久美子教諭

「授業づくり研究会は初参加です。協力者の先生は動きが違いますし、子どもたちの反応も良いので、本物に教えていただく重要性を感じました。コンスタントに授業協力者に来てもらえると思います。こういった取組が増えると良いと思います」

◇大井崇教諭

「授業づくり研究会は2回目の参加です。昨年は参観者で、今年は自分

が授業担当でした。事前に打ち合わせして、何回か授業に来てもらったのでこちらの意図することがある程度できました。防具の着用方法や、面・胴・小手の打ち方はすごく勉強になりました。今後は、学年に応じた教え方も学びたいです」

◇女性体育科教員

「指導法だけでなく、教員が協力者などのように関わっていくかを教えていただいたので、授業イメージができて良い経験でした。授業では時間を気にしてメニューをこなすことになりがちですが、礼法もしっかり教えないといけないと改めて思いました。私は柔道専門ですが、同じ武道で通じる部分が多かったです。技術も大事ですが、人間形成の部分に力を入れていきたいです」

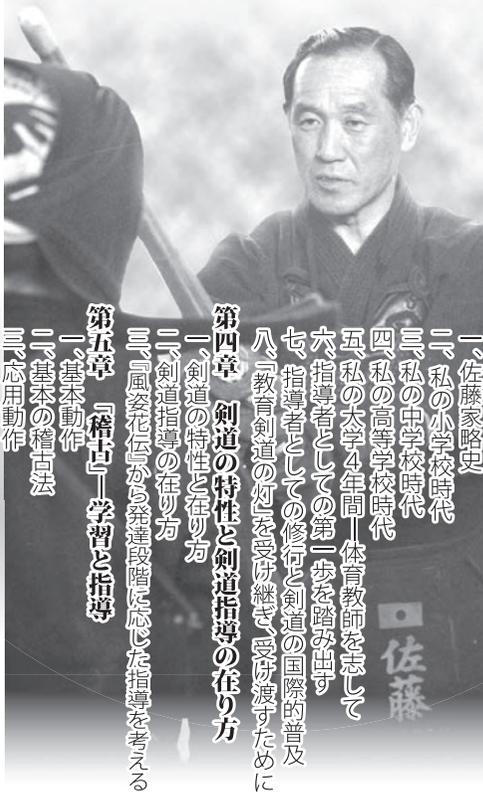
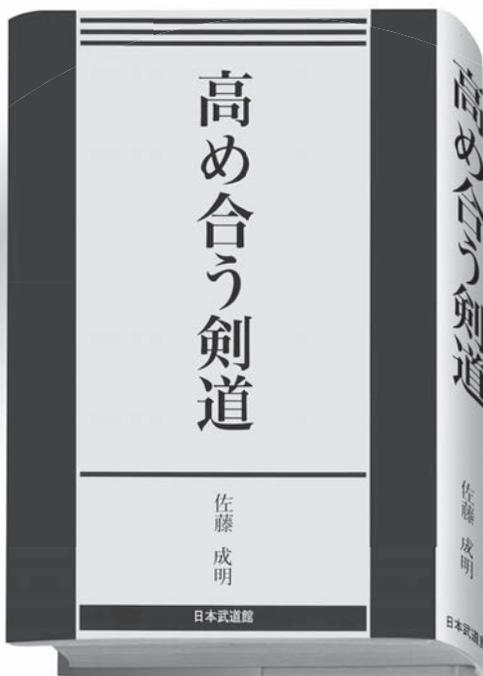
◇男性授業協力者

「以前は授業協力者だけの講習で、実感が湧かない面もあったのですが、現在は体育科教員も参加して内容が充実してきたと思います。授業協力者の制度を各学校には積極的に利用してほしいです」

◎好評発売中

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著



目次

第一章 剣道小史―剣技・剣術・剣道の歴史

一、奈良時代～江戸中期―

闘争の技術から竹刀剣術の誕生まで

二、江戸時代中期以降～現在―剣術から剣道へ

第二章 剣道と教育

一、教育に関する基礎知識

二、「三育思想」

三、「教育基本法」と「学習指導要領」

四、「礼」の教育について

第三章 自身史を綴る

一、佐藤家略史

二、私の小学校時代

三、私の中学校時代

四、私の高等学校時代

五、私の大学4年間―体育教師を志して

六、指導者としての第一歩を踏み出す

七、指導者としての修行と剣道の国際的普及

八、「教育剣道の灯」を受け継ぎ、受け渡すために

第四章 剣道の特性と剣道指導の在り方

一、剣道の特性と在り方

二、剣道指導の在り方

三、「風姿花伝」から発達段階に応じた指導を考える

第五章 「稽古」―学習と指導

一、基本動作

二、基本の稽古法

三、応用動作

四、稽古への取組方と方法

五、剣道における形の重要性

第六章 試合について

一、試合(一)―先達の文献から

二、試合(二)―剣道の「術理」

終章 高め合う剣道

一、稽古の意義と心得

二、剣道に関する古今の訓え

三、互いに学び高め合う教育剣道のために

“互いに学び高め合う教育剣道のために”

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。
これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁・本体2400円十税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

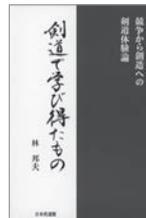


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。